

平成4年度（平成4年3月1日から平成5年2月28日まで）事業報告

特記事項

1. 北村前企画委員長を中心にまとめた「長期展望小委員会報告書」を受けて、企画委員会の下に長期展望検討小委員会を設置した。
2. 文書規程をH4.12.18の理事会で承認した。施行はH5.1.1。
3. 経理規程をH4.12.18の理事会で承認した。施行はH5.3.1。
4. 渡辺義介記念賞の受賞者数を従来の15名以内から、平成5年度以降4年間20～25名に増加する。
5. 西山記念賞の受賞者数は企業関係者が7名、大学・研究機関関係者が8名であったが、学術表彰を強化するため、平成5年度から大学・研究機関関係者の増加に重点を置いて合計20～25名とする。
6. 里見賞(表面処理分野)第1回の表彰をH4.10.6に行った。
7. 表彰および奨励資金寄贈者の小伝と過去の受賞者一覧を掲載した「表彰奨励銘鑑」を発行した。
8. 本会の事業紹介パンフレットである「ACTIVITY & PROFILE」の和文、英文版をそれぞれ改訂し、発行した。
9. 本会の周辺領域活動の企画・推進を目的として境界領域委員会を発足させ、その下に
(1)境界領域企画分科会(2)チタン分科会(3)材料電磁プロセス分科会(4)プラズマプロセス分科会(5)自動車用材料分科会の5分科会を発足させた。
10. 「鉄と鋼」をH5年1月よりA4判で発行すると同時に、ISIJ情報ネットワークの支部編集の第1回として、1月号に東北支部編集記事を掲載した。
11. 平成4年度より新しく名簿管理システムの構築作業に入り、その一部である会員名簿システムをほぼ完成した。引続き各委員会委員等管理に関するシステムの構築に着手する。
12. 育成委員会の新事業として、高校理科系教諭を製鉄所見學と鉄鋼技術者・研究者との懇談会を通じて組織化するための「ものづくり教育を考える会実行分科会」、および本会に蓄積された知的財を集大成し最新鉄鋼学術書として出版するための「知的財小委員会」を設置した。また、「戦後復興期におけるわが国鉄鋼技術の発展」を刊行した。
13. 第4回溶融スラグとフラックスに関する国際会議を6月8日～11日仙台で開催した。講演件数113件参加者277名であった。
14. 弾力的に企画・実施できる小規模国際会議制度の新設を決定し、5件をスタートさせた。
15. 共同研究会
(1)計測制御部会と設備技術部会電気設備分科会を統合し、制御技術部会とし、3分科会が発足した。
(2)耐火物部会主催で日独技術交流会を京都で開催した。
(3)圧延理論部会理論解析研究小委員会および鉄鋼分析部会鋼中微量炭素定量小委員会が発足した。
16. 特定基礎研究会
(1)表面処理鋼板の界面化合物部会およびステンレス鋼の耐候性部会が発足した。
(2)充填層中の気・固・液移動現象部会シンポジウムを開催した。
17. 基礎研究会
(1)耐火物の組織評価研究部会および高強度鋼板の疲労強度向上研究部会が発足した。
(1)ベイナイト調査研究部会がベイナイト組織写真集を刊行した。
18. S38年11月に、日本金属学会、日本学術振興会と共同で始められた鉄鋼基礎共同研究会は、より良き研究体制を指向するため、本年度を以って発展的に解消し、30年にわたる歴史を閉じた。傘下の研究部会は特基研究会に移管する。
19. 鉄鋼研究振興助成金選考委員会
2回目を迎えた鉄鋼研究振興助成金の選考は、応募78件より学術、地方振興、若手研究者助成の3つの観点から審査が行われ、昨年と同数の20件が決定した。
20. 国際会議資料(プロシーディングス)の会員利用の便をはかるため、H3、4年入手国際会議資料のデータベース構築を完了した。今後も継続していく。
21. 学振19委員会、54委員会の資料を鉄鋼技術情報センターで保管すると同時に同資料が公開されることとなった。
22. 標準室とISO事務局を統合して、鉄鋼標準化センターを4月に設置。鉄鋼標準化事業中長期計画の基本方針を策定し、この基本方針に基づく中長期計画を決定した。
23. 第14回ISO/TC 17/SC 1(鉄鋼分析)国際会議を6月15日より5日間ロンドンで、また第2回ISO/TC 67/SC 5(油井管)国際会議を10月21日より3日間神戸で主催した。
24. 鉄鋼の分析技術向上と標準化について国際的な連携を強化し、ISO活動をバックアップするための第1回国際鉄鋼分析委員会を6月12日ロンドンで開催した。
25. 工業技術院より委託された鉄鋼JIS48規格について国際整合性の調査、改正、確認、廃止の要否などの検討を鉄鋼JIS三者委員会で行った。
26. 22元素の不純物含有率の合計が20ppm以下の超高純度鉄の標準試料を開発、頒布を開始した。

目 次

I. 会 議

1. 総会	N458
2. 評議員会	N458
3. 理事会	N458
4. 特別資金運営委員会	N458
5. 名誉会員候補選考委員会	N458
6. 次期役員候補選考委員会	N458
7. 一般表彰選考委員会	N458
8. 特別表彰選考委員会	N458
9. 委員長会議	N458
10. 支部長会議	N458
1. 企画委員会	N458
11.1 会計分科会	N458
11.2 庶務分科会	N458
11.3 表彰奨励推薦分科会	N458
11.4 長期展望検討小委員会	N458
2. 境界領域委員会	N458
12.1 境界領域企画分科会	N458
12.2 チタン分科会	N458
12.3 材料電磁プロセッシング分科会	N458
12.4 プラズマプロセッシング分科会	N458
12.5 自動車用材料分科会	N458
3. 編集委員会	N459
13.1 和文会誌分科会	N459
13.2 欧文会誌分科会	N459
13.3 講演大会分科会	N459
13.4 機械翻訳検討小委員会	N459
4. 育成委員会	N459
14.1 企画小委員会	N459
14.2 知的財小委員会	N459
14.3 技術講座小委員会	N459
14.4 鉄鋼工学セミナー小委員会	N459
14.5 日向方斉学術振興交付金選考分科会	N459
14.6 戦後技術史調査小委員会	N459
14.7 学生見学会実行分科会	N459
14.8 ものづくり教育を考える会実行分科会	N459
5. 国際交流委員会	N459
6. 研究委員会	N459
16.1 石原・浅田研究助成金選考分科会	N459
16.2 研究テーマ小委員会	N459
16.3 研究環境実態調査小委員会	N460
16.4 将来研究課題小委員会	N460
16.5 海洋材料小委員会	N460
16.6 科研費研究分科会	N460
7. 鉄鋼研究振興助成金選考委員会	N460
8. 国際鉄鋼技術委員会	N460
9. 鉄鋼技術情報センター運営委員会	N460
19.1 図書館小委員会	N460
19.2 プロシーディングス小委員会	N460
19.3 情報管理研究部会	N460
10. 鉄鋼標準化センター運営委員会	N460
1. 標準化委員会	N460
2. 鉄鋼JIS三者委員会	N460
3. 鉄鋼標準試料委員会	N460

II. 会 員

1. 名誉会員	N460
2. 会員の異動	N460

III. 役員および委員

1. 理事	N461
2. 監事	N461
3. 評議員	N461
4. 支部長	N462
5. 常務委員	N462
6. 企画委員	N462
7. 境界領域委員	N462
8. 編集委員	N462
9. 育成委員	N462
10. 国際交流委員	N462
11. 研究委員	N463
12. 鉄鋼研究振興助成金選考委員	N463
13. 国際鉄鋼技術委員	N463
14. 鉄鋼技術情報センター運営委員	N463
15. 鉄鋼標準化センター運営委員	N463
16. 標準化委員	N463
17. 鉄鋼JIS三者委員	N463
18. 鉄鋼標準試料委員	N463

IV. 一般会計による事業

1. 刊行事業	N463
1.1 鉄と鋼	N463
1.2 ISIJ International	N463
1.3 材料とプロセス	N463
1.4 図書の刊行	N463
2. 講演大会事業	N463
2.1 講演大会	N463
2.2 特別講演会	N464
2.3 講演大会見学会	N464
3. 育成事業	N464
3.1 知的財活用	N464
3.2 西山記念技術講座	N464
3.3 白石記念講座	N465
3.4 鉄鋼工学セミナー	N465
3.5 学生見学会	N465
3.6 ものづくり教育を考える会	N465
3.7 他学協会との共催、協賛、後援による事業	N465
4. 国際交流事業	N465
4.1 溶融スラグとフラックスに関する国際会議	N465
4.2 二国間シンポジウム	N465
4.3 国際会議・二国間シンポジウム準備状況	N465
4.4 その他の国際交流	N465
5. 技術調査・研究事業	N465
5.1 共同研究会	N465
5.2 特定基礎研究会	N467
5.3 基礎研究会	N468
5.4 鉄鋼基礎共同研究会	N468
5.5 日本金属学会との共同研究	N468

6. 技術情報事業	N468
6.1 図書・資料事業	N468
6.2 情報業務事業	N469
6.3 著作物等の頒布	N469

7. 標準化事業	N469
7.1 標準規格作成事業	N469
7.2 ISO幹事国事業	N470
7.3 鉄鋼標準試料事業	N471

V. 特別会計による事業

1. 特別資金会計による事業	N472
1.1 表彰	N472
1.2 湯川メモリアルレクチャー並びに 湯川記念講演会の開催	N473
1.3 石原・浅田研究助成金の交付	N473
1.4 日向方斉学術振興交付金	N473
1.5 浅田記念文庫の寄贈	N473
1.6 戦後技術史調査事業	N473
1.7 鉄鋼研究振興助成金	N473
2. 補助金等事業会計による事業	N474
2.1 鉄鋼二次製品生産設備実態調査	N474
2.2 日本压力容器研究会議	N474
2.3 新環境統合都市研究委員会	N474

VI. 支 部

1. 事業	
1.1 北海道 支部	N475
1.2 東 北 支部	N475
1.3 北 陸 支部	N476
1.4 東 海 支部	N476
1.5 関 西 支部	N477
1.6 中国四国支部	N477
1.7 九 州 支部	N478
2. 収支決算	N479

VII. 平成4年度収支決算

N480

VIII. 総務事項

N484

IX. 寄付金の受入れ

N484

I. 会 議

1. 総会

第77回通常総会。H4.4.1。ザ・クレストホテル津田沼。

議事

- (1)平成3年度事業報告、収支決算ならびに財産目録の件一承認可決
- (2)平成4年度事業計画ならびに収支予算の件一承認可決
- (3)理事、監事ならびに評議員選挙の件一別記Ⅲのとおり当選就任

2. 評議員会

・平成4年度第1回評議員会、H4.7.20、書面審議。

議事

- (1)萩原理事候補の補欠選挙一当選就任
- ・平成4年度第2回評議員会、H5.2.26。

議事

- (1)平成4年度事業報告、収支決算ならびに財産目録
- (2)平成5年度事業計画ならびに収支予算
- (3)次期理事、監事ならびに評議員候補者推薦
- (4)名誉会員推荐
- (5)定款施行細則の一部改訂

3. 理事会

8回開催。H4.4.1、4.4.2、4.4.20、4.6.24、4.7.24、4.10.7、4.12.18、H5.2.26。一般会務につき協議決定。

4. 特別資金運営委員会

H5.1.22。表彰ならびに事業資金、渡辺義介記念資金・西山弥太郎記念資金・湯川正夫記念資金・浅田長平記念資金・三島徳七記念資金・林達夫記念資金・白石元治郎記念資金・日向方斉学術振興資金・外島健吉記念資金・研究振興資金および鉄鋼研究振興資金の平成4年度事業および決算案ならびに平成5年度事業計画および予算案を審議。

なお、平成4年度末における三島徳七記念資金および林達夫記念資金の残額を表彰ならびに事業資金へ繰入れ統合することに決定。

5. 名誉会員候補選考委員会

3回開催。H4.7.24、4.10.7、H5.1.22。名誉会員の選考。

6. 次期役員候補選考委員会

H5.1.22。次期理事、監事、評議員の選考。

7. 一般表彰選考委員会

2回開催 H4.7.24、H5.1.22。本会表彰の受賞者の選考。

8. 特別表彰選考委員会

本年度開催なし。

9. 委員長会議

本年度開催なし。

10. 支部長会議

H4.4.2、4.10.6。支部組織運営のあり方、支部活動の活性化、運営資金、支部規則、支部地域別区分等について本部と支部との意見交換。

11. 企画委員会(委員長:弘田 昇)

7回開催。H4.4.13、4.6.16、4.7.22、4.9.25、4.12.11、H5.1.29、5.2.19。事業運営上の諸計画、予算、国際交流、他団体からの依頼による表彰奨励の推薦などについて協議。

11.1 会計分科会(主査:近藤 嘉一)

9回。予算決算、補助金の処理など経理に関する事項を審議。平成5年度から実施する経理規程の立案。

11.2 庶務分科会(主査:浅野 鋼一)

3回。諸規程の審議。

11.3 表彰奨励推薦分科会(主査:浅野 鋼一)

5回開催。他団体からの依頼による表彰奨励候補の選考。なお、本年度受賞したものは次のとおり。

第23回 石川賞

日本鋼管(株)

「大規模DCSによるエネルギー統合制御システムの構築」

第27回 日本塑性加工学会賞(平成4年度)

(1)会田技術奨励賞 (株)神戸製鋼所

「大型厚肉円筒の温間液圧加工技術の開発と実用化」

(2)功労賞 川崎製鉄(株) 斎崎 忍

第24回 市村産業賞(平成3年度)

(1)功績賞 住友金属工業(株)

「Nb,Cu含有高性能フェライト系ステンレス鋼板の開発」

(2)貢献賞 新日本製鐵(株)

「電気化学測定法による構造物の腐食診断技術の開発」

日立金属(株)

「高性能自動車エンジンのタービンハウジング用耐熱鋳鋼の開発と実用化」

第27回 機械振興協会賞(平成4年度) 新日本製鐵(株)

「自動コイル金属梱包ラインの開発」

第39回 大河内記念生産賞

川崎製鉄(株) 「ステンレス継目無鋼管の高生産性製造技術の確立」

住友金属工業(株) 「高強度・高耐食Ni基金属油井管の開発」

11.4 長期展望検討小委員会(小委員長:弘田 昇)

4回開催。理事会の決定に基づき設置。協会事業活動のあり方、協会組織の見直し、それらに対する事務局体制等についてのビジョンの確立と実行への具体策を検討。

12. 境界領域委員会(委員長:岸 輝雄)

本会は、業際・学際分野での研究生産活動の広がりに対応して、講演大会における萌芽・境界領域部門の設置及び論文投稿の奨励、また境界領域部門における研究活動の推進を実施してきたが、この度、この周辺領域の活動を更に活性化するため、「境界領域委員会」を設置。その下に新素材・新プロセスなど周辺領域を取扱う分科会を設け、活動を開始。平成4年度には、委員会4回開催。活動方針、新分科会の設置などを検討。

12.1 境界領域企画分科会(主査:吉田 豊信)

H4年6月に発足。分科会4回開催。活動方針、委員構成、平成5年度の活動計画を討議。また、第124回講演大会に於て、「高速成膜・高速表面改質技術の進歩と応用」のテーマで討論会(講演18件)を実施。

12.2 チタン分科会(主査:河部 義邦)

H4年8月に発足。分科会2回開催。平成5年度の活動計画について討議し、特に海外研究者との交流および講演大会におけるチタン部会会場の日本金属学会との一体化などを計画。

12.3 材料電磁プロセス分科会(主査:浅井 滋生)

H4年8月に発足。分科会1回開催。平成5年度の活動としては、企画検討会・調査研究会の開催および基礎と応用技術に関するテキストの作成準備等を計画。

12.4 プラズマプロセス分科会(主査:牛尾 誠夫)

H4年6月に発足。分科会3回開催。平成5年度の活動計画について討議し、特にプラズマ発生法シンポジウムの開催および総合解説書の作成準備等を計画。

12.5 自動車用材料分科会(主査:武智 弘)

H4年7月に発足。分科会3回開催。「環境問題と自動車用材料」のテーマで自動車会社からの講演を実施。(社)自動車技術会と共同活動について協議折衝。

13. 編集委員会(委員長:佐野 信雄)

6回開催。

- (1) H5年1月号からの「鉄と鋼」および同年春季講演大会からの「材料とプロセス」のA4判化に伴う表紙デザインの決定、「鉄と鋼」に関し論文誌と情報誌の内容区分の明確化、および記事の充実。
- (2) 最近の講演大会講演内容に対応した講演申込分類の改訂。当分類は本会の分野分けを基本とし会誌の索引、会員の専門分野、研究テーマ募集分類等に利用。
- (3) 依論文賞5件、澤村論文賞3件を選考。
- (4) 境界領域委員会新設に伴う、Materials Processing分科会の廃止。
- (5) H7年の本会創立80周年を記念し、過去10年間の研究・技術の変遷を中心とした「鉄と鋼」特集号の編集・出版を決定。

13.1 和文会誌分科会(主査:木原 諄二)

11回開催。

- (1) ISIJ情報ネットワーク記事の一部の支部への編集委託。H5年1月号は東北支部、9月号は関西支部、H6年1月号は中国・四国支部。
- (2) 掲載記事の強化策として講義記事の充実、新技術・新製品の紹介、職場ウォッチング欄などを新設。
- (3) H5年の特集号「圧延における寸法制御と制度向上」、「鉄鋼業における最近のセンサー技術」を決定。
- (4) 論文のフロッピー投稿を検討。

13.2 欧文会誌分科会(主査:菊池 實→佐野 正道)

11回開催。

- (1) 「鉄と鋼」に掲載された論文のISIJ Internationalへの再投稿は、「鉄と鋼」掲載後2年以内の受理に限る、との内規変更。
- (2) Advisory Boardのメンバーの交替。(新メンバー10人)
- (3) H5年の特集号は「Transport Phenomena in Packed Beds」、「Surface Modification of Materials」、「Physical Metallurgy of Ultralow Carbon Interstitial Free Steels」決定。
- (4) 論文のフロッピー投稿を検討。

13.3 講演大会分科会(主査:小野 陽一→梶岡 博幸)

6回開催。

- (1) 123回(春季)、124回(秋季)各講演大会の企画・実施、125回(H5.春季)、126回(同秋季)各講演大会討論会テーマの決定。
- (2) 124回講演大会において講演大会の運営改善をめざしたアンケートを実施、その解析中。
- (3) 「材料とプロセス」Vol.5 No.1-No.6を発行。
- (4) 講演申込分類の改訂とH5年春季講演大会よりの実施。①高温プロセス基盤技術、②製鉄・還元、③製鋼・精錬、④ casting・凝固、⑤ 計測・制御・システム技術、⑥ 分析評価・解析技術、⑦加工・鋼構造、⑧表面技術、⑨材料の組織・性質、⑩萌芽・境界領域

○鋼構造物WG(リーダー:坂本 傑)

4回開催。講演大会における討論会、依頼講演者の企画、今後の活動について審議。

13.4 機械翻訳検討小委員会(小委員長:新宮 秀夫)

平成3年度に引続き9論文の機械翻訳の実施および専門辞書約6,000語登録。H5年3月当システムに関する今後の方針の決定予定。

14. 育成委員会(委員長:牛山 博美)

3回開催。平成4年度の新事業として企画した①高校理科教育担当教諭の製鉄所・研究所見学と鉄鋼技術者・研究者との懇談を目的とした協議会の設置、②協会、大学、企業で蓄積されている知的財産体系化による図書の刊行について、それぞれ「ものづくり教育を考える会実行分科会」および「知的財小委員会」を設置。

平成5年度事業としては、日本における鋼の連続鑄造技術史の編纂を決定。

14.1 企画小委員会(小委員長:荒牧 透)

7回開催。平成4年度検討テーマは13件。この中で「日本における鋼の連続鑄造技術史編纂」については、日本の産学界が揺籃期から高

度の生産技術に育て上げた連続鑄造技術を技術史としてまとめることは非常に意義深く、また今の時期を失っては今後不可能となるとの観点から平成5年度育成委員会の重要課題として提案。「外国人博士研究員奨学制度」と「鉄鋼工学セミナー・アドバンスドコース」については企画小委員会の下に準備委員会を設けて詳細実行計画を作成中。

14.2 知的財小委員会(小委員長:増子 昇)

2回開催。第1回執筆として、耐火物、製鉄、製鋼、圧延、鉄鋼の腐食、耐熱鋼の分野から8名が決定。

14.3 技術講座小委員会(小委員長:河部 義邦)

3回開催。西山記念技術講座3テーマ5回。白石記念講座2テーマ2回開催すると同時に、平成5年度のテーマを次のとおり決定。

(1)西山記念技術講座

第148・149回「圧延におけるトライボロジー」

第150回 「鉄鋼業における計測・制御技術とその役割」

第151・152回「ステンレス鋼」

(2)白石記念講座

第24回「地球環境・エネルギー問題の現状と将来」

第25回「地下利用技術」

14.4 鉄鋼工学セミナー小委員会(小委員長:徳永 洋一)

1回開催。コース別講師打合せ6回開催。第18回鉄鋼工学セミナーの実施ならびに第19回(平成5年度)の計画。すしづめ状態解消のため募集人員の削減と参加費の値上げを決定。

14.5 日の方学術振興交付金選考分科会(主査:萬谷 志郎)

2回開催。第18,19回学術振興交付金対象者の選考を行い、6名を選定。

14.6 戦後技術史調査小委員会(小委員長:田畑新太郎)

小委員会1回。幹事会2回開催。日本鉄鋼業の戦後における技術展開を調査し、本編・資料編を出版。

14.7 学生見学会実行分科会(主査:宮島 正和)

3回開催。第8回学生見学会の実施ならびに第9回の計画。平成5年度より分担金を維持会費と同時に請求し納入することが決定。

14.8 ものづくり教育を考える会実行分科会(小委員長:井口 泰孝)

1回開催。平成5年度製鉄所・研究所見学と鉄鋼技術者との懇談会を計画。

15. 国際交流委員会(委員長:富浦 梓)

3回開催。主な討議内容

- 1) 小規模国際会議新設の決定
- 2) 協賛団体会員に対する国際会議登録料の取扱い
- 3) 国際会議、小規模国際会議、二国間シンポジウム開催計画の検討
- 4) 国外関係学協会との学術・技術交流の推進

16. 研究委員会(委員長:山口 正治)

隔月(奇数月)で6回開催。

研究テーマ募集区分のうち「鉄鋼基礎共同研究会テーマ」については、廃止の方向にて検討中のところ、12月9日の鉄鋼基礎共同研究会運営委員会で、以下のように決定した。

- 1) 鉄鋼基礎共同研究会は本年度をもって終了する。
- 2) 現在活動中の研究部会は鉄鋼協会の特定基礎研究会が引継ぐ。
- 3) 新しく、鉄鋼・金属研究会(仮称)を設ける。

本年度から「石原・浅田研究助成テーマ」の募集、選定も「研究テーマ」の募集、選定に併せて研究委員会で行った。

16.1 石原・浅田研究助成金選考分科会

(研究テーマ小委員会に引継ぎ終了)

16.2 研究テーマ小委員会(小委員長:小指 軍夫)

2回開催。平成5年度実施の研究テーマの公募と選定。

応募件数:53件、選定件数:鉄鋼基礎共同研究会;なし、特定基礎研究会;8件(→4件に統合)、特定基礎研究会単独研究依頼;2件、基礎研究会;1件、大規模研究プロジェクト;なし、石原・浅田研究助成;2件(研究テーマ名、研究者名は「鉄と鋼」1月号参照)。平成6年度実施の研究テーマ公募用の主要技術課題の見直し整理。

16.3 研究環境実態調査小委員会(小委員長:佐久間健人)

本小委員会は隔年毎に調査を実施。H4月に新メンバーにて発足。4回の委員会を開催。9月に大学および企業への研究環境についてのアンケート調査を実施完了。その結果のまとめを実施中。

16.4 将来研究課題小委員会(小委員長:徳田 昌則)

魅力的研究テーマの探索、鉄鋼分野の研究のあり方についての将来展望などの研究調査を目的として、本会の第135回西山記念技術講座「21世紀の鉄鋼業」等を出発点に議論を進めている。

16.5 海洋材料小委員会(委員長:小川 幸文)

3回開催。関係7学協会共催の海洋工学連絡会/海洋工学パネルへの対応で活動中。H5年1月、海洋工学連絡会/第7回海洋工学パネルに「海洋石油構造物の防食技術」と題して本会からパネラーを派遣。

16.6 科研費研究分科会(主査:山口 正治)

2回開催。平成5年度文部省科学研究費補助金の第1段審査委員と第2段審査委員に関し本会推薦者を選考して、幹事学協会へ通知。また本会が幹事学協会を務める細目「金属生産工学」に関しては協議学協会へ推薦依頼の案内と取りまとめ等を実施。

17. 鉄鋼研究振興助成金選考委員会(委員長:北村 卓夫)

本会では鉄鋼研究の活性化を目的に鉄鋼各社および日本鉄鋼連盟の協力により5億4350万円強の基金を設け、それにより生ずる果実を大学関係の研究者に平成4年度から助成金として交付を開始した。幹事会2回、委員会1回開催。平成5年度実施分は78件の応募があり20件を選定。平成5年度研究費助成総額は4110万円。

(研究テーマ名、研究者名は「鉄と鋼」H5年1月号参照)

18. 国際鉄鋼技術委員会(委員長:富浦 梓)

4回開催。

- 1)第24回技術委員会定例会議(マドリッド)の出席報告
- 2)第26回IISI年次総会(東京)のパネル討議テーマ、内容の検討準備。
- 3)次回のパネル討議テーマ検討および新規スペシャルスタディテーマ、技術交流セッションテーマについて討議。

19. 鉄鋼技術情報センター運営委員会(委員長:中川 龍一)

2回開催。デポジットライブラリーの整備、国際会議資料(プロシーディングス)のデータベース構築、学振資料の保管と一般公開、中国からの研修生受け入れ。

19.1 図書館小委員会(小委員長:宮田 隆司)

1回開催。図書室サービスの強化、デポジットライブラリーの整備、「共同研究会資料索引誌」の保管をMTよりフロッピーへ、学振製鋼第19委員会・製鉄第54委員会資料の保管とその資料の一般公開を学振へ提案。

19.2 プロシーディングス小委員会(小委員長:鈴木 正敏)

2回開催。国際会議資料(プロシーディングス)のデータベース化、購入方法、「国際会議資料案内」の体裁、送付先の検討。

19.3 情報管理研究部会(部会長:梅田 高照)

各社に於ける技術情報管理体制についてのシンポジウム(3月)開催。新日鉄・技術開発本部(富津)(3月)、神鋼・総合技術研究所(11月)見学会を開催。「日本科学技術情報センターの事業と灰色文献」(6月)講演会を開催。

20. 鉄鋼標準化センター運営委員会(委員長:神崎 昌久)

4回開催。鉄鋼標準化センター発足に伴う主査4名体制の確立。鉄鋼標準化事業の中長期計画の基本方針の確立とそれに基づく中長期計画の作成。中立者、使用者、生産者の適正比率で構成する三者構成委員会の設置などについて協議決定。

幹事国業務遂行のためTC17諮問部会1回、TC17/SC1諮問部会4回及びTC67/SC5諮問部会8回開催。

21. 標準化委員会(委員長:荒木 透)

JISとISO規格との整合性の一層の向上と組織の合理化をめざし、従来別々であったJIS原案審議等の国内標準化関係組織(1部会9分科会1小委員会)とISO規格原案審議関係組織(1部会19分科会3小委員会)を統合し、運営分科会および12の分科会と1小委員会で構成する新標準化委員会をH4年7月に発足。会議開催数は59回(旧組織13回を含む)。なお、運営分科会では新組織を軌道に乗せるための分科会毎の守備範囲設定、関連他団体との連携の仕組み確立。標準化事業の中長期基本方針案の策定、ISO会議派遣会社の調整を行った。

22. 鉄鋼JIS三者委員会

工業技術院より委託された鉄鋼JIS48件(鋼材39件、分析9件)について鋼材JIS見直し調査委員会(委員長:木原諄二、他21名)、鉄鋼分析JIS見直し調査委員会(委員長:大河内春乃、他15名)を設置して審議。H5年3月に報告書を提出の予定。なお、国際整合性の調査、改正・確認・廃止の要否などの草案作成は標準化委員会JP1,JP3,JP4,JP6およびJE4の各分科会が実施。

23. 鉄鋼標準試料委員会(委員長:佐伯 正夫)

運営部会3回開催。需要家のニーズに沿った標準試料の更新及び将来のニーズに即した新製品の開発、事業の効率化並びに国際化に対応した事業運営に関する審議。

II. 会 員

1. 名誉会員

大谷正康、細木 繁郎、森 一美、邵 象华、André Ristを平成4年度総会において推挙した。

作井 誠太君逝去。

2. 会員の異動

	名誉	賛助	維持	外国	正	学生	計
H4.2.29現在	62	7	216	669	9,103	179	10,236
入会	1		12	65	739	91	908
転格	4			20	112	5	141
				-21	-28	-92	-141
退会				-102	-777	-7	-886
死亡退会	-2	-2	-2		-29		-35
H5.2.28現在	65	5	226	631	9,120	176	10,223

Ⅲ. 役員および委員

1. 理事

H4.4.1 第77回通常総会において任期満了理事の改選を行い、次の者当選就任。

(任期2年)

浅井 滋生 浅野 鋼一 内仲 康夫 江本 寛治 大西 敬三
岸 輝雄 近藤 嘉一 島田 仁 弘田 昇 富浦 梓
萬谷 志郎 馬越 佑吉 三好 俊吉 森 克巳 森 甲一
なお、留任の理事は下記のとおり。

牛山 博美 小口 醇 川上 正博 川田 敏郎 菊池 實
神崎 昌久 倉重 輝明 佐野 信雄 高石 昭吾 田口喜代美
谷野 満 中江 秀雄 永井 親久 山口 正治 横川 敏雄

H4.4.1 理事会において、互選により次のとおり当選就任。

会 長 三好 俊吉
副 会 長 永井 親久 萬谷 志郎
専務理事 島田 仁

なお、理事の職務分掌は次表のとおり。

○委員長 △主査

	留 任 理 事	新 任 理 事
会 長		三好 俊吉 (NKK)
副 会 長	永井 親久 (神 鋼)	萬谷 志郎 (東北大)
専 務 理 事		島田 仁 (鉄 協)
企 画 委 員 会	牛山 博美 (大 同)	内仲 康夫
	川田 敏郎 (中 山)	(国際事業団)
	萩原 康彦 (住 金)	江本 寛治 (川 鉄)
	神崎 昌久 (新日鐵)	岸 輝雄 (東 大)
庶務分科会	(兼)佐野 信雄 (東 大)	○弘田 昇 (日 新)
	谷野 満 (東北大)	森 甲一 (愛 知)
	川上 正博 (豊橋技大)	△浅野 鋼一 (山 特)
会計分科会	高石 昭吾 (鉄 連)	
	田口喜代美 (トーフスナル)	大西 敬三 (日 鋼)
境界領域委員会		△近藤 嘉一 (鋼 鉄)
		浅井 滋生 (名 大)
編 集 委 員 会		○岸 輝雄 (東 大)
	小口 醇 (金材研)	富浦 梓 (新日鐵)
	(兼)川上 正博 (豊橋技大)	
	菊池 實 (東工大)	浅井 滋生 (名 大)
育 成 委 員 会	(兼)萩原 康彦 (住 金)	森 克巳 (九 大)
	○佐野 信雄 (東 大)	
	中江 秀雄 (早 大)	
	○牛山 博美 (大 同)	浅野 鋼一 (山 特)
国際交流委員会	神崎 昌久 (新日鐵)	江本 寛治 (川 鉄)
		○富浦 梓 (新日鐵)
研 究 委 員 会		森 甲一 (愛 知)
	(兼)小口 醇 (金材研)	(兼)近藤 嘉一 (鋼 鉄)
	○山口 正治 (京 大)	富浦 梓 (新日鐵)
	横川 敏雄 (北 大)	馬越 佑吉 (阪 大)

H4.7.20 理事辞任 倉重 輝明

H4.7.20 理事就任 萩原 康彦

2. 監事

H4.4.1 第77回通常総会において任期満了監事の改選を行い、小倉 貞一 当選就任。なお、留任は雀部 實。

3. 評議員

H4.4.1 第77回通常総会において任期満了の評議員の改選を行い、次の者当選就任。

(任期2年125名)

阿部 芳平 足立原明文 相川賢太郎 青井 舒一 朝位 義照
荒木 透 伊木 常世 石黒 隆義 石黒 嘉人 井上 道雄
岩井 彦哉 岩城 正保 岩崎 茂夫 上村 眞彦 植田 守昭
小野 陽一 及川 洪 王寺 睦満 大河内春乃 大中 逸雄
大庭 浩 大森 正男 大和田国男 加藤 健 加藤 健三
甲斐 幹 笠原 美三 片岡 修 片田 哲也 梶原 太吉
神谷 春樹 川合 保治 川崎文一郎 木原 諄二 木村 達也
北村 卓夫 北村 恒夫 久保寺治朗 久能 一郎 久米 豊
倉内 憲孝 栗原 康 桑原 達朗 小林佐三郎 小林 和三
河野 拓夫 佐伯 修 佐伯 達夫 三枝 誠 斎藤 喜一
阪本 英一 作井 誠太 三宮 章博 白石 春樹 白松 爾郎
鈴木三千彦 瀬戸 浩蔵 相馬 胤和 副島 利行 田口 昇
田中 邦三 田中 義巳 田山 昭 高村 仁一 竹内 肇
竹内 久弥 龍野 富雄 館 充 館野 万吉 谷川 正
谷口 安祥 玉置 正和 辻川 茂男 寺門 良二 徳永 洋一
飛山 一男 中澤 吉 中村 和生 中村 正久 中山 豊
永井 潤 永野 辰雄 新美 格 新山 英輔 西尾 哲
西崎 允 西澤 泰二 根本 實 橋口 隆吉 原 貞夫
日渡 惺朗 平野 治男 弘津 禎彦 藤井 義弘 藤原 俊朗
藤本 一郎 細井 祐三 細木 繁郎 堀田 正之 本田 忠敏
増子 昇 増本 健 松下 幸雄 松田 常美 松原 博義
三島 良績 三田村外喜男 三野 重和 美坂 佳助 宮崎 亨
向井 楠宏 森 一美 森 省二 森田善一郎 盛 利貞
諸橋 晋六 八木 直彦 八木 靖浩 安江 幹 柳澤 忠昭
柳澤 治明 山鹿 素雄 山城 彬成 山田 孝雄 山田 浩蔵

(任期1年5名)

池高 聖 井上 正文 川口 三郎 甲谷 知勝 長 隆郎

なお、留任の評議員は下記のとおり。

新井 宏一 荒木 孝雄 池島 俊雄 石井 邦宜 石川 明
石田 二郎 石野 亨 泉 久司 磯 平一郎 一瀬 英爾
伊藤亀太郎 伊藤 孝 伊藤 雅治 伊藤 慶典 井上 浩行
今井勇之進 岩崎有一郎 上田 仁 上杉 年一 梅田 高照
大岡 耕之 大須賀立美 大谷 正康 大橋 延夫 大森 康男
大矢 龍夫 岡 宗雄 岡本 平 沖信 春男 荻野 和己
小田 助男 小原 信二 小野 勝敏 鍵本 潔 加藤 榮一
川上平次郎 川名 昌志 川本 信彦 岸田 壽夫 君嶋 英彦
木村 宏 京極 哲朗 草川 隆次 熊谷 直彦 栗田 満信
小島 浩 権藤 永 斎藤 恒夫 斎藤 好弘 坂尾 弘
佐久間健人 佐藤 忠雄 佐野 幸吉 志岐 守哉 品川 丞
新宮 秀夫 新宮 康男 杉本 孝一 鈴木 朝夫 鈴木 禎一
住友 元夫 高梨 省吾 高橋 忠義 竹下 勅三 田中 駿一
田中 實 田中 良平 田畑新太郎 玉本 茂 塚田 尚史
塚田 浩 塚本富士夫 清崎 忍 徳田 昌則 豊田 茂
堂山 昌男 土手 彬 中川 一 中川 龍一 中村 為昭
中村 泰 南雲 道彦 奈古屋嘉茂 行方 二郎 新居 和嘉
西澤 一彦 西島 敏 西八条 實 布村 成具 長谷川義彦
羽田野道春 蜂谷 整生 羽島 幸男 浜中 全美 林 主税
古川 敬 原田 利夫 久松 敬弘 深見 泰三 福田 健二
古川 敬 古田 徳昌 不破 祐 堀川 一男 牧 正志
松野 浩二 丸橋 茂昭 三田 勝茂 三井 太信 宮脇 芳治
毛利 良一 森 勉 森 禮次郎 山中 卓 山本 全作
横井 信司 吉崎 鴻造 米倉 功

評議員 作井 誠太君 H4.3.8 逝去

高梨 省吾君 H4.3.20 逝去

4. 支部長

支 部 名	退 任	新 任	交替年月日 (理事会承認)
東 北	萬谷 志郎	谷野 満	H4.4.2
北 陸	一ノ瀬幸雄	竹内 淳	H4.6.24
東 海	沖 猛雄	大橋 正昭	H4.4.2
関 西	浅野 鋼一	成田 貴一	H4.4.2
九 州	長谷川一郎	萬谷 興亜	H4.10.7

5. 常務委員

H4.4.2 委嘱 佐伯 正夫、細木 繁郎、半明 正之

H4.7.24 解嘱 山本 全作

6. 企画委員

H4.4.20 委嘱 鍵本 潔、郡田 和彦

7. 境界領域委員

H4.4.21 委嘱

阿部 光延、牛尾 誠夫、河合 伸泰、志田 善明、槌谷 暢男
竹村 裕、新居 和嘉、森田 有彦、吉田 豊信、渡辺 馨

8. 編集委員

(1)編集委員会

H4.8.13 解嘱

倉重 輝明、尾上 俊雄、下村 隆良、中西 恭二

H4.8.13 委嘱

萩原 康彦、石川 圭介、勝亦 正昭、田中 淳一、野崎 努

(2)和文会誌分科会

H4.4.3 解嘱 (専門委員) 三木喜代春 委嘱 宮内 哲也

H4.8.13 解嘱

(分科会委員) 川上 正博、森戸 延行

(専門委員)

岡本健太郎、鷺山 勝、清水 正賢、高橋 政司、鍵田 征雄

H4.8.13 委嘱

(分科会委員) 岩永 祐治

(専門委員)

磯辺 邦夫、大沢 紘一、国重 和俊、栗原 正好、小林 勲
友田 陽、増田 一郎、望月 一雄、森 克巳、山下 正明

(3)欧文会誌分科会

H4.4.3 解嘱 (分科会主査) 菊池 實 委嘱 佐野 正道

H4.4.3 解嘱 (分科会幹事) 林 央 委嘱 加藤 雅治

H4.8.13 解嘱

(分科会委員)

石井 邦宜、馬越 佑吉、梶原 義雅、高橋 洋一、前田 正史
山岡洋次郎

(専門委員)

金井 洋、角田 方衛、橋本 修、肥後 矢吉、宮原 一哉

H4.8.13 委嘱

(分科会委員) 相沢 龍彦、野城 清、宮沢 憲一

(専門委員)

秋山 徹也、有山 達郎、市橋 弘行、小原 隆史、武田 幹治
堀部 進、宮本 淳之、山岡 秀行、若島 健司

(4)講演大会分科会

H4.4.3 解嘱(分科会主査) 小野 陽一 委嘱 梶岡 博幸

H4.2.10 解嘱 (専門委員) 宮原 忍 委嘱 村上 勝彦

H4.4.21 解嘱 (専門委員) 松尾 亨 委嘱 渡部 忠男

H4.8.13 解嘱

(分科会幹事) 尾上 俊雄

(分科会委員) 寺田 雄一、鍵田 征雄、森戸 延行、高橋 政司

(専門委員)

北村 雅司、加藤 雅典、古崎 宣、高橋 洋一、橋本 俊一
山中 幹雄

H4.8.13 委嘱

(分科会幹事) 石川 圭介

(分科会委員) 北川 孟、永田 和宏、古川 高司

(専門委員)

秋山俊一郎、磯辺 邦夫、磯部 光利、今井 文雄、大池 美雄
大沢 紘一、国重 和俊、河野 輝雄、桜谷 敏和、塚谷 一郎
津田 正臣、中村 守文、西藤 勝之、増田 一郎、望月 一雄
山内 秀樹、山本 章夫

(5)鋼構造Working Group

(6)Materials Processing分科会

H4.4.21 解嘱

浅井 滋生、大内権一郎、香川 豊、志田 善明、高城 重彰
滝川 博、武田 紘一、辻本 得藏、槌谷 暢男、長井 寿
永田 和宏、西原 公、西村 孝、宮沢 憲一、村上 雅人
吉田 豊信、渡辺 龍三

9. 育成委員

(1)育成委員会

H4.4.1 委嘱 岡田 健

H4.5.26 委嘱 萬谷 志郎

H4.5.26 解嘱 岡田 健 委嘱 宮島 正和

H4.8.10 解嘱 今井 卓雄 委嘱 江見 俊彦

H4.11.9 解嘱 南雲 道彦 委嘱 徳永 洋一

(2)企画小委員会

H4.8.10 解嘱 奥村 寛 委嘱 増喜 浩二

(3)知的財小委員会

H4.6.1 委嘱 増子 昇(小委員長)

木原 諄二、佐野 正道、梶岡 博幸

(4)技術講座小委員会

H4.3.13 解嘱 酒井 潤一 委嘱 束田 幸四郎

H4.4.28 委嘱 三島 良直

H4.7.23 解嘱 酒井 忠迪、松永 久

委嘱 前田 正文、古崎 宣

H4.9.1 解嘱 小林 邦彦 委嘱 松山 隼也

H4.11.5 解嘱 梶井 明、加藤 雅典

委嘱 田中 淳一、大坪 俊治

(5)鉄鋼工学セミナー小委員会

H4.8.20 委嘱 渡辺 征一

H4.9.16 委嘱 徳永 洋一(小委員長)

永田 和宏、片山 裕之、内田 秀、中田正之

H4.11.9 解嘱 南雲 道彦(小委員長)

大中 逸雄、富田 省吾、登根 正二

(6)学生見学会実行分科会

H4.5.25 解嘱 酒井 忠迪、赤迫 修二、山田 幸宏

委嘱 前田 正文、松永 滋、佐藤 紀雄

H4.5.26 解嘱 岡田 健(主査) 委嘱 宮島 正和(主査)

H4.6.18 解嘱 田端 義信 委嘱 鳥谷 徹

H4.8.10 解嘱 手塚 誠、内藤 雅夫

委嘱 伊藤 毅、増喜 浩二

H4.8.17 委嘱 吉葉 正行

10. 国際交流委員

H4.4.20 解嘱 塚田 尚史、磯部 晋、酒井 忠迪

委嘱 工藤 浩一、竹村 裕、郡田 和彦

H4.9.29 解嘱 那波 泰行、江波戸 和男

委嘱 山岡 洋次郎、峠 竹弥

H4.12.8 解嘱 工藤 浩一 委嘱 関村 和義

11. 研究委員

H.4.8.12 解囑 手塚 誠、中西 恭二
委囑 伊藤 勲、市田 敏郎

12. 鉄鋼研究振興助成金選考委員

H.4.8.12 解囑 中西 恭二、小倉 貞、井上 正文
H.4.8.12 委囑 上田 修三、中島 明、内堀 勝之

13. 国際鉄鋼技術委員

H.4.7.1 解囑 中島 一郎 委囑 青柳 桂一
H.4.8.3 解囑 中西 恭二 委囑 市田 敏郎
H.4.8.11 解囑 酒井 忠迪 委囑 郡田 和彦
H.4.10.6 解囑 中村 和生 委囑 宮島 正和
H.4.11.9 解囑 高石 昭吾 委囑 小林 叡

14. 鉄鋼技術情報センター運営委員

H.3.5.15 解囑 利根川圭一郎 委囑 郡田 和彦
H.4.12.10 解囑 齊藤 汎 委囑 平 忠明

15. 鉄鋼標準化センター運営委員

H.4.4.21 委囑
神崎 昌久、斎藤 真人、中島 一郎、武重 賢治、近藤 徹
萩原 康彦、光武 紀芳、中村 和生、矢島 忠正、富安 維一郎
近藤 嘉一、森 孝、荒木 透、佐伯 正夫、島田 仁
H.4.8.12 解囑 斎藤 真人 委囑 向井 保
解囑 中島 一郎 委囑 青柳 桂一
解囑 近藤 徹 委囑 柳島 章也
委囑 中澤 吉
H.4.11.24 解囑 中村 和生 委囑 宮島 正和
H.5.1.19 解囑 柳島 章也 委囑 三芳 純

16. 標準化委員

H.4.8.12 解囑 中島 一郎 委囑 青柳 桂一
H.4.6.17 解囑 古川 精 委囑 武田 俊彦
H.4.7.6 解囑 近藤 徹 委囑 内藤 雅夫
H.4.7.20 解囑 伊藤 元清 委囑 八杉誠二郎

17. 鉄鋼JIS三者委員(暫定)

(鋼材)

H.4.7.6 委囑
木原 諄二、井野 幸雄、青柳 桂一、服部 幹雄、黒木 勝也
久松 定興、井上 一郎、三浦 恒幸、綿貫 克治、関 博光
木岡 良員、山田健太郎、川原 雄三、大屋 武夫、中家 一弥
前原 郷治、八杉誠二郎、大浦 基宏、濱田 誠己、宮本 一郎
宮川 義正

(分析)

H.4.12.25 委囑
大河内春乃、岡野 輝雄、河村 恒夫、佐伯 正夫、蔵保 浩文
岩田 英夫、成田 正尚、藤田 昇平、広川吉之助、藤貫 正
永山 宏、東原 巖、橋本 勝、青柳 桂一、服部 幹雄
黒木 勝也

18. 鉄鋼標準試料委員

H.4.8.27 解囑 松村 泰治 委囑 船橋 佳子
H.4.10.6 解囑 大瀨 熙久 委囑 藤田 昇平
H.4.12.21 委囑 久保田正明
H.5.1.14 解囑 森本 求 委囑 竹内 一彦

IV. 一般会計による事業

1. 刊行事業

1.1 鉄と鋼

第78年3号～第79年2号、12冊を発行。内「製鉄プロセスにおける現象とモデル化」(7月号)は特集号。平成4年度は投稿論文175件、掲載論文188件、1430頁、解説等43件、362頁、現場技術報告65件、260頁、ISIJ情報ネットワーク599頁、合計2691頁。

1.2 ISIJ International

Vol.32, No.3～Vol.33, No.2まで12冊を発行。内次の5冊が特集号
①Recent Advances in Modelling on Microstructural Evolution and Properties of Steels(No.5), ②Melting, Refining and Solidification of Rare Metals and Their Alloys, and Superalloys(No.5), ③High Performance Composit Materials(No.8), ④Roll for Mills(No.11), ⑤Molten Slags and Fluxes(93 No.1)

平成4年度は投稿論文206件、掲載論文170件、1359頁、掲載Review13件、110頁、合計1469頁。

1.3 材料とプロセス

第123回(春季)講演大会(Vol.5, No.1～No.3)、第124回(秋季)講演大会(Vol.5, No.4～No.6)を発行。

Vol.5, No.1 263件、討論28件、330頁(製鉄凝固プロセス)

No.4 289件、討論19件、378頁

No.2 248件、討論41件、436頁(計測・制御・システム技術、分析評価・解析技術、加工・鋼構造、表面技術・萌芽・境界領域)

No.5 296件、討論51件、462頁(技術、加工・鋼構造、表面技術・萌芽・境界領域)

No.3 166件、討論9件、204頁(材料の組織・性質)

No.6 239件、討論13件、294頁

1.4 図書の刊行

平成4年は次の図書を刊行した。

①鋼のベイナイト写真集-1、②高炉下部における移動現象、③戦後復興期におけるわが国鉄鋼技術の発展、④戦後復興期におけるわが国鉄鋼技術の発展 資料編、⑤鉄鋼製品の放射線試験法、⑥鉄鋼製品の浸透探傷法、⑦条鋼の超音波探傷法、⑧ISIJ各種配管サポート、⑨会議報告 第6回日本・中国鉄鋼学術会議、⑩Proceedings; Molten Slags & Fluxes '92

2. 講演大会事業

2.1 講演大会

2.1.1 第123回講演大会

1) 会 期 H.4.4.1(水)、2(木)、3(金)

2) 会 場 千葉工業大学 津田沼校舎

3) 講演数 高温物理化学・プロセス 42件、製鉄 94件、製鉄・製鋼 共通 19件、製鋼 142件、計測・制御・システム技術 47件、分析評価・解析技術 26件、加工・鋼構造 102件、表面技術 56件、萌芽・境界領域 67件、材料の組織・性質 175件、合計 770件(内討論会78件)

4) 討論会

①コークス炉内の物理的・化学的挙動とその解析
座長 西岡 邦彦、副座長 鈴木 喜夫 講演9件

②連铸における電磁気力利用の技術とその基礎研究
座長 浅井 滋生、副座長 竹内 栄一 講演19件

③化学分析の最近の進歩
座長 大河内春乃、副座長 岩田 英夫 講演14件

④薄板圧延におけるエッジドロップ制御
座長 川並 高雄、副座長 鍵田 征雄 講演13件

⑤表面処理鋼板の耐食性
座長 辻川 茂男、副座長 鷺山 勝、副座長 平 武敏
副座長 若野 茂 講演14件

⑥機械構造用高強度非調質鋼

座長 井上 毅、副座長 並木 邦夫 講演 9 件

5)講演大会関連行事

(1)懇親会(H 4. 4. 1 18:00～20:00 ザ・クレストホテル津田沼)

参加者 402名

司 会 茂木 徹一(千葉工大教授)

挨拶 三好 俊吉(本会会長)

増本 健(金属学会会長)

渡辺 久藤(千葉工科大学長)

乾 杯 細木 繁郎(本会新名誉会員)

閉会の辞 森田善一郎(本会前会長・阪大教授)

(2)ジュニアパーティー(H 4. 4. 2 17:30～19:40 千葉工大学生食堂)

参加者 132名

挨拶 尾上 俊雄(講演大会分科会幹事・神鋼)

(3)鉄鋼・金属連絡会(H 4. 4. 2 12:00～13:00 千葉工大本館会議室)

出席者 鉄鋼協会 佐野 信雄理事、他8名

金属学会 鈴木 朝夫理事、他9名

協議事項 講演大会の開催地

H 4 年秋(富山大学)、H 5 年春(横浜国大)、H5年秋(名古屋工業大学)と決定。

(4)鉄鋼・金属幹部打合せ(H 4. 4. 3 12:00～13:00 千葉工大本館会議室)

出席者 鉄鋼協会 三好 俊吉新会長、他7名

金属学会 増本 健会長、他7名

協議事項 共通問題に関する意見交換

2. 1. 2 第124回講演大会

1)会 期 H 4. 10. 6(火)、7(水)、8(木)

2)会 場 富山大学 工学部、理学部

3)講演数 高温物理解化学・プロセス 49件、製鉄 108件、製鉄・製鋼 共通 21件、製鋼 130件、計測・制御・システム技術 48件、分析評価・解析技術 19件、加工・鋼構造 134件、表面技術 77件、萌芽・境界領域 70件、材料の組織・性質 252件、合計 908件(内討論会84件)

4)討論会

①焼結鉍製造における鉍石・焼結鉍等の評価技術

座長 肥田 行博 講演 8 件

②連続鋳造における初期凝固現象とその制御

座長 大中 逸雄、副座長 桜谷 敏和 講演11件

③鉄鋼計測における最近の信号処理技術

座長 北川 孟、座長 西藤 勝之 講演 6 件

④プロセッシングラインでの板走行・矯正技術

座長 益居 健、副座長 藤田 米章 講演15件

⑤合金化溶融亜鉛めっき鋼板の合金化反応と成形性

座長 広瀬 祐輔、副座長 若野 茂 講演13件

⑥高強度薄鋼板の組織制御と材料特性

座長 西本 昭彦、副座長 瀬沼 武秀 講演13件

⑦高速成膜・高速表面改質技術の進歩と応用

座長 吉田 豊信、座長 武田 紘一 講演18件

5)講演大会関連行事

(1)懇親会(H 4. 10. 6 18:00～20:00 名鉄トヤマホテル)

参加者 430名

司 会 石黒 隆義(富山大教授)

挨拶 大岡 耕之(実行委員長・富山大教授)

増本 健(金属学会会長)

三好 俊吉(本会会長)

小黒 千足(富山大学長)

乾 杯 大和田国夫(不二越社長)

アトラクション 八尾おはら

中締め 山本 倫久(富山県工業技術センター所長)

(2)ジュニアパーティ(H 4. 10. 7 18:00～20:00 県民会館キャッスル)

参加者 186名

挨拶 梶岡 博之(講演大会分科会主査・新日鉄)

閉会の辞 石川 圭介(講演大会分科会幹事・金材技研)

(3)鉄鋼・金属連絡会(H 4. 10. 7 12:00～13:00 工学部小会議室)

出席者 鉄鋼協会 佐野 信雄、他 7 名

金属学会 鈴木 朝夫、他 8 名

協議事項 講演大会の開催地

H 6 年春(東工大)、H 6 年秋(九大)を決定。H 5 年秋会場の名工大の教室について説明があった。

(4)鉄鋼・金属幹部打合せ(H 4. 10. 8 11:30～13:30 工学部小会議室)

出席者 鉄鋼協会 三好 俊吉会長、他 6 名

金属学会 増本 健会長、他 5 名

協議事項 ①支部の地区割について(今後検討)、②支部事業について、③奨学賞について(H 5 年の第 1 回授賞に向けて合議してゆく)、

④H 7 年秋季大会を金属学会がハワイ開催になった場合は本会は関西で単独開催とする。その場合当年迎える創立80周年記念行事も関西で開催することもありうる。

2. 2 特別講演会

(1)湯川メモリアルレクチャー(H 4. 4. 1 15:10～16:20)

「Striving for More and Better Steel –Behind Closed Door and in the Open–」

Prof. Shao Xianghua(China)

「Analogue Diagrams for Process Metallurgists」

Prof. André Rist(France)

(2)渡辺義介賞受賞記念講演(H 4. 4. 1 16:30～17:00)

「日本鉄鋼業の近代化と私の歩んだ道」(新日本製鉄㈱常任顧問 山本 全作)

(3)西山賞受賞記念講演(H 4. 4. 1 17:10～17:40)

「耐熱鋼から超高温材料へ」(東京工業大学名誉教授 ㈱超高温材料研究センター技術顧問 田中 良平)

(4)浅田賞受賞記念講演(H 4. 10. 6 15: 50～16: 35)

「鉄鋼用耐火物の発展」(黒崎窯業㈱常任顧問 片瀬 伝治)

2. 3 講演大会見学会

2. 3. 1 工場見学会(H 4. 10. 9)

第 I 班 ㈱スギノマシン滑川工場、銀盤酒造㈱、吉田工業㈱黒部事業所

参加費 4,000円 参加者 26名

第 II 班 ㈱不二越、三協アルミニウム工業㈱新湊工場、立山・黒部アルペンルート

参加費 29,000円 参加者 44名

2. 3. 2 婦人見学会(H 4. 10. 7)

黒部峡谷 参加費 7,000円 参加者 37名

3. 育成事業

3. 1 知的財活用

第 1 回執筆者として下記の分野から合計 8 名が決定した。平成5年度中に 1 分野が出版される見込み。

執 筆 者	執 筆 分 野
杉田 清(新日鉄)	耐火物技術
羽田野道春(住金)	製鉄技術
梶岡博幸(新日鉄)	製鋼技術
鎌田正誠(NKK)	圧延技術(ストリップ技術)
中島浩衛(新日鉄)	圧延技術(形鋼、パイプ)
小指軍夫(NKK)	制御圧延(組織制御)
松島 巖(NKK)	鉄鋼の腐食
太田定雄(神鋼)	耐熱鋼

3. 2 西山記念技術講座

(1)第143・144回「最近の高純度鋼溶製技術の進歩」

(東京・J A ホール)H 4. 5. 14～15 聴講者166人

(大阪・科学技術センターホール)H 4. 5. 28～29 聴講者131人

(2)第145回「鉄鋼業における耐火物技術の展望」

(東京・J A ホール)H 4. 11. 25～26 聴講者179人

- (3)第146・147回「製鉄技術の最近の進歩と将来」
(東京・J A ホール)H5.2.9～10 聴講者194人
(大阪・科学技術センターホール)H5.2.18～19 聴講者122人

3.3 白石記念講座

- (1)第22回「新加工・成形・プロセス技術」
(東京・経団連ホール)H4.6.18 聴講者95人
(2)第23回「資源リサイクルの現状と将来」
(東京・J A 第1会議室)H4.11.27 聴講者180人

3.4 鉄鋼工学セミナー

第18回鉄鋼工学セミナー

会 期 H 4 . 7 . 25～31

場 所 宮城県蔵王町 蔵王ハイッ

受講生 製鉄コース25名、製鋼コース48名、材料コース119名、計192名

講 師 製鉄コース12名、製鋼コース12名、材料コース20名

3.5 学生見学会

第7回の理工系大学生のための研究所・製鉄所の見学会を14学会の協賛を得て3月16～19日の4日間全国19会場で実施。参加者はほぼ昨年並の832名。

3.6 ものづくり教育を考える会

東北支部をモデルケースとして高校理科教育担当教諭の製鉄所見学と鉄鋼技術者・研究者との懇談会を実施。

日 時 H 4 . 8 . 6～7

場 所 新日鐵君津製鉄所および鉄鋼研究所・プロセス研究所

参加者 宮城県、山形県、福島県の教諭28名

3.7 他学協会との共催、協賛、後援による事業

共催6件、協賛170件、後援6件、計182件。

4. 国際交流事業

4.1 4th International Conference on Molten Slags and Fluxes-Molten Slags & Fluxes '92(第4回溶融スラグとフラックスに関する国際会議)

- 1)会議 H 4 . 6 . 8-11(組織委員長:萬谷 志郎)仙台市・仙台国際センター
講演総数は113件、内開会講演3件(下記)、基調講演10件(日本3、海外7)、参加者数日本198名、韓国19名他ロシア、中国、米国など16ヶ国60名合計277名。3会場に分かれて実施。

①開会講演

The Influence of Structure on the Physico-Chemical Properties of Slags

K.C.Mills イギリス国立物理研究所

Mathematical Expression of Slag-Metal Reactions by Regular Solution Model

萬谷 志郎 東北大学工学部教授

Physical Chemistry of Slags Produced in the Processing of Non-ferrous Metals

J.M.Toguri カナダトロント大学教授

今回はH8年オーストラリアで開催予定。

本会議の開催に際し、宮城県、仙台市、新井科学技術振興財団等より補助金の交付を受けた。

4.2 二国間シンポジウム

4.2.1 The 5th Japan-Nordic Countries Joint Symposium on Science and Technology of Process Metallurgy(第5回日本・ノルディック諸国シンポジウム)

- 1)会議 H4.9.14-15(組織委員長:雀部 實)フィンランド・エスプー市
講演件数 日本側 14件 ノルディック側 15件 計29件
参加者数 日本側 18名 ノルディック側 64名 計82名
開会講演 Introducing Study of Japanese Present Steelmaking
雀部 實団長

4.2.2 The Sixth Japan-China Symposium on Science and Technology of Iron and Steel(第6回日本・中国鉄鋼学会会議)

- 1)会議 H 4 . 11 . 17-18(組織委員長:森田善一郎)千葉市・川崎製鉄(株)

みやぎき倶楽部、研修センター

講演件数 日本側 22件 中国側 20件 計42件

参加者数 日本側 86名 中国側 24名 計110名

講演内容:製鉄、製鋼、冶金物理化学、製鉄・製鋼のオートメーション

4.3 国際会議、二国間シンポジウム準備状況

4.3.1 International Conference on Computer-assisted Materials Design and Process Simulation-COMMP'93(材料設計およびプロセス工学へのコンピューター利用に関する国際会議)H 5 . 9 . 6-9 東京都・日本都市センター

組織委員会(委員長:新居 和嘉)ではH4年2月に2nd Circularを発行、国内外の関係者ならびに団体に配布、論文を募集。104件のアブストラクトを受付けた。

4.3.2 The First International Congress on Science and Technology of Ironmaking-ICSTI'94(世界製鉄会議)H 6 . 6 . 14-17 仙台市・仙台国際センター

組織委員会(委員長:徳田 昌則)ではH4年12月に1st Circularを発行、国内外の関係者ならびに団体に配布、論文を募集。

4.3.3 International Symposium on Electromagnetic Processing of Materials-EPMP'94(材料電磁 プロセッシング国際会議)H 6 . 10 . 25-28 名古屋・名古屋大学シンポジウム

組織委員会(委員長:浅井 滋生)ではH5年1月に1st Circularを発行、国内外の関係者ならびに団体に配布、論文を募集。

4.3.4 第8回日本・ドイツセミナー H 5 . 10 . 6-7 仙台市・東北大学工学部青葉記念会館

組織委員会(委員長:萬谷 志郎)では日本側論文タイトル11件をまとめ論文執筆依頼を行った。

4.4 その他の国際交流

4.4.1 海外学協会等との交流

本会への主要来訪者、海外への派遣者は次のとおり。

- 1)H 4 . 4 . 1-3 第123回講演大会で関東駿、金京燮、南在福、趙鐘敏、Y.J.Rhee、朴秀湖、K.T.Kim(以上RIST)、W.T.Baker(EPRI)、E.Metcalf(National Power)、R.Blum(ELSAMPROLEKT)、T.B.Abbot(BHP Research)らが講演発表。

- 2)H 4 . 4 . 8-10 第5回耐火物日・独技術交流会を京都で開催。G.Klages(Thyssen Stahl AG)他9名来日。日本側出席者 今井 卓雄部会長他14名。

- 3)H 4 . 5 . 12 世界金属・材料関係学協会専務理事会議(London)に専務理事島田 仁を派遣。

- 4)H 4 . 9 . 8-10 GALVATECH'92(Amsterdam)に三吉 康彦(新日鐵)を派遣。

- 5)H 4 . 10 . 6-8 第124回講演大会でA.M.Katsnelson(Baik.Inst.Met.)、J.Plessers(Heraeus Electro Nite Inst.)、K.S.Park、T.S.Kim、Y.G.Song、H.J.Lee、M.S.Kim、C.L.Lee、T.Y.Won、H.C.Yoo(以上RIST)、M.M.Wolf(Wolftech.)、R.H.Davis(BHP)、譚玉華(中国湘潭大学)、H.C.Chen(China Steel)らが講演発表。

- 6)H 4 . 11 . 11 世界金属・材料関係学協会専務理事会議(Dusseldorf)に専務理事島田 仁を派遣。

4.4.2 協賛した国際会議

開催地域別件数は次のとおり。アジア11件、ヨーロッパ8件、アメリカ4件、オセアニア1件、計24件。

5. 技術調査・研究事業

5.1 共同研究会(会長:三好 俊吉、幹事長:細木 繁郎)

18部会、16分科会、9小委員会、3専門委員会、1技術検討会で構成、鉄鋼製造技術に関する各種の研究を共同で実施。

5.1.1 製鉄部会(部会長:渋谷 悌二)

2回開催。第80回は、共通議題「焼結プロセスに於ける新技術と今後のあり方」8件、自由議題6件の論文発表、改修報告1件と、特別講演「新塊成鉾(H P S)の技術開発とその製造」(NKK・鉄鋼研)。第81回は、共通議題「微粉炭吹き込み操業の現状と今後の課題」8件、自由議題6件の論文発表、改修報告1件と、特別講演「鉄鉾石購買の歴

史と今後の課題」(新日鐵・本社)。

製鉄技術検討会は、2回開催。21世紀における製鉄技術のあり方を「粗鉄」製造技術の観点で捉え、ワーキンググループにて検討した結果を討議。

5.1.2 コークス部会(部会長:彼島 秀雄)

2回開催。第44回は、共通議題「コークス炉付帯設備の機能維持と老朽更新」10件、自由議題4件の論文発表と特別講演「コークス製造のための乾留制御部会研究活動報告」(新日鐵・坂輪幹事長)、「急速加熱プロセスにおける石炭粒子の膨張・付着に関する力学特性」(九工大・東谷教授)。第45回は、共通議題「コークス炉炉蓋シール性の現状と今後の技術対策について」10件、自由議題4件の論文発表。

5.1.3 製鋼部会(部会長:王寺 睦満)

2回開催。第106回は、重点テーマ「精錬工程における機械化・自動化技術の現状と将来」7件、自由テーマ13件の研究発表と特別講演「山陽特殊製鋼における製鋼技術の現状」(山特／本社)。第107回は、重点テーマ「連鑄品の直行率の現状とその向上対策」6件、自由テーマ13件の研究発表と特別講演「千葉製鉄所における製鋼技術の現状」(川鉄／千葉)。

5.1.4 電気炉部会(部会長:石原 弘二)

2回開催。第39回部会は共通テーマ「スラグ処理」22件、自由テーマ6件、特別講演「電炉・厚板の品質」(中部鋼鉄)。第40回部会は共通テーマ「E B Tまたは底吹き操業の効果」19件、自由テーマ11件、特別講演「最近の製鋼設備の課題」(大同特殊鋼)。

5.1.5 特殊鋼部会(部会長:矢島 忠正)

2回開催。第92回は、共通テーマ「タンディッシュにおける熱付与技術について」6件、自由テーマ12件、特別講演「神戸製鋼所における製鋼技術の現状」(神鋼／神戸)。第93回は、共通テーマ「インゴット造塊の改善—自動化、機械化、品質改善—」7件、自由テーマ10件、特別講演「当社における製鋼技術の現状」(大同／本社)。

5.1.6 鋼板部会(部会長:君嶋 英彦)

1)分塊分科会

2回開催。第72回は、各工場操業状況報告、共通議題(条部門「連鑄分塊圧延材の製造実績と品質作り込み」、板部門「板部門の連鑄化とスラブ手入れ状況」)に関するアンケート調査報告、自由議題10件の研究発表と特別講演「最近5年間の分塊・精整工場合理化工事の紹介」(神鋼／神戸)。第73回は、各工場操業状況報告、共通議題((条、板部門共通)「合理化計画 Part I (要員関係の実績と将来計画)」)に関するアンケート調査報告、自由議題12件の研究発表と特別講演「最近の製鋼部の歩み」(住金／小倉)。

2)厚板分科会

2回開催。各回とも工場操業状況報告、メインテーマ(第73回は、「T M C P (D Qを含む)」、第74回は、「要員対応から見た厚板の現状と将来」)に関するアンケート報告を実施。

3)ホットストリップ分科会

2回開催。各回とも操業状況調査、共通議題(第56回は、「作業率向上」、第57回は、「設備改造・新設備」)に関するアンケート報告、自由議題の研究発表(各回とも13件)を実施。特別報告書「わが国における最近のホットストリップ製造技術」の付図表の改訂版を発行。

4)コールドストリップ分科会

2回開催。各回とも操業状況報告、共通議題(第55回は、「梱包」、第56回は、「圧延油とクーラントシステム」)に関するアンケート報告、事例発表(第55回13件、第56回14件)を実施。

5.1.7 亜鉛めっき鋼板部会(部会長:鍋丁 雅彦)

2回開催。操業状況調査、共通議題 第14回部会は「表面外観・疵疵格材の製造検査体制」第15回部会は「省エネルギー」、自由議題 各回10件、11件。

5.1.8 条鋼部会(部会長:三宮 章博)

1)大形分科会

2回開催。第55回は操業データ、テーマ研究「寸法精度向上対策」、自由研究6件。第56回は操業データ、テーマ研究「要員合理化」、自由研究8件。

2)中小形分科会

2回開催。第72回は操業データ、テーマ研究:普通鋼グループ「品質保証体制について」特殊鋼グループ「設備保全(センサーも含む)について」自由研究16件、特別講演「条鋼分野における冷間自動探傷機について」。第73回は操業データ、テーマ研究:普通鋼グループ「圧延能力の向上」、特殊鋼グループ「品質管理と製造コスト」自由研究15件。

3)線材分科会

2回開催。第73回は操業データ、テーマ研究「組替・カリバー替について」、自由研究14件、特別講演「自動車におけるC S向上活動と鉄鋼材料への要望」。第74回は、操業データテーマ研究「制御圧延・制御冷却の設備と操業」、自由研究13件、特別講演「線材ミルの現状と今後の動向」。

5.1.9 鋼管部会(部会長:H 4年8月まで、高井 岩男、以降、西川 幸一良)

本部会は、部会および継目無鋼管、溶接鋼管の2分科会と高級ラインパイプ専門委員会で構成。部会は年2回、両分科会は年1回、専門委員会は年2回開催。部会は、第58回では第57回に引き続き共通議題「21世紀における鋼管製造プロセスとその課題—PART 2—」と題しパネルディスカッションを実施。第59回では、特別議題として東京電力鹿島発電所、花王鹿島工場を見学。

1)継目無鋼管分科会(主査:中井 俊次)

第46回分科会では、マンネスマン関係では、共通議題2件「省力化・自動化について」、「ローリングスケジュールについて」。また熱押・冷牽関係では共通議題「冷間加工技術の進歩について」を報告、さらに共通議題「熱間押出関係における各社の情報交換」と題しパネルディスカッションを実施。

2)溶接鋼管分科会(主査:H 4年8月まで、杉山 隆雄、以降、長阪 哲男)

第46回分科会では、電弧溶接関係は共通議題2件「U O E鋼管の製品物流について」、「スパイラル鋼管の生産性向上について」。また電縫・鍛接関係は共通議題2件「鍛接管の品質作り込みと品質保証について」、「電縫鋼管の小ロット化対応方法について」を報告。さらに上記両分科会とも、工場操業状況を各参加事業所より報告。

3)高級ラインパイプ専門委員会(委員長:横山 栄一)

1回の委員会を開催。さらに、破壊、腐食の2WGにて活動。破壊関係は「シェブロンノッチD W T Tの適用」、腐食関係は「実管試験を含む溶接部割れ評価試験」を研究、検討。

5.1.10 圧延理論部会(部会長:中島 浩衛)

2回開催。第96回は、メインテーマ「薄板・厚板・条鋼圧延、管圧延・成形および基礎技術に関するもの」に関する研究発表16件、特別講演「飲料容器へのぶききD I 缶の適用と現状」(東洋鋼鉄／下松)。第97回は、前回と同一テーマによる研究発表18件、特別講演「当所における厚板製造技術の最近の進歩」(新日鐵／君津)。

1)理論解析研究小委員会

3回開催。F E M等最新の解析技術を駆使し、圧延の高度解析技術の向上と、圧延理論に対する新しい体系化を図ることを目的に、平成4年度に新規発足。本年度は、3Dにおける共通条件による各社解析手法の比較研究を実施し、バラツキの原因を解明。

5.1.11 熱経済技術部会(部会長:合野 定彦)

当部会は、年2回部会を開催。第90回部会では、記念大会として統一議題記念講演2件「これからの鉄鋼プロセス技術に期待する—熱経済技術部会活動の回顧と展望—」、「鉄鋼業のC O₂による地球温暖化防止対策」、特別議題2件、自由議題10件、自由討論5件を報告。第91回部会は、統一議題として新燃焼技術研究小委員会の成果報告「鉄鋼プロセスにおける最近の燃焼技術」、特別議題1件、自由議題9件、自由討論7件、各社エネルギーバランスまとめを報告。また、新燃焼技術研究小委員会の活動を完了。

5.1.12 耐火物部会(部会長:今井 卓雄)

2回開催。第51回は、重点テーマ「自動化・機械化」、「溶銑予備処理」に関する研究発表17件、特別講演「福山製鉄所における耐火物技術の現状」(N K K／福山)、「日本の伝統工芸備前焼」。第52回は、重点テーマ

「転炉耐火物」、「評価技術」に関する研究発表18件、アンケートWG報告「製鋼用耐火物の補修技術および再使用技術」、特別講演「和歌山製鉄所における製鋼技術と耐火物」。また「部会50回記念誌」を発行。

5.1.13 制御技術部会(部会長：歳弘 卓也)

H4年7月に、計測制御部会と設備技術部会・電気設備分科会が統合され、新しく制御技術部会が設立。設立総会(第106回)では、部会および3分科会(電気技術、計測技術、プロコン)の活動方針紹介、記念講演「計測と制御研究の現状と今後」、「エルゴノミックス・デザイン」の2件、研究発表7件。

計測制御部会の第105回(最終回)では、制御(電気・計装系)、センシング、システム関係の研究発表24件と、特別セッション「AI適用上の課題とその対応策」にて事例発表と討議。電気設備分科会の第32回(最終回)では、共通テーマ「製鉄所における無線システムの現状と課題」まとめ報告、特別講演「無線技術の最新動向」、「電気設備技術の変遷」の2件、レクチャー3件。

5.1.14 品質管理部会(部会長：萩原 康彦)

2回開催。第66回は、共通議題「品質設計の現状と今後のあり方」14件の論文発表、アンケート結果報告(14社35事業所)、特別講演「呉製鉄所2CC-2HOT直結ラインの管理システム概要」(日新/呉)および非破壊検査小委員会活動報告。

第67回は、共通議題「ISO 9000シリーズ規格への対応について」、サブテーマ(1)「文書管理と品質記録」10件の論文発表、サブテーマ(2)「製品の識別およびトレーサビリティ」4件の論文発表、アンケート結果報告(14社35事業所)、特別講演「棒線工場の識別管理体制」(新日鐵/君津)および機械試験小委員会活動報告。

1) 機械試験小委員会

2回開催。(第51回、第52回)①標準化関係の議題は、鉄鋼標準化センター設立による標準化委員会と当機械試験小委員会との役割分担、引張試験片検討WGの報告、②検査制度関係の議題は官能検査精度管理懇談会活動結果報告、鋼の脱炭層深さ標準写真、③自動化能率化の議題は事例紹介10件、画像処理懇談会活動報告。

2) 非破壊検査小委員会

2回開催。(第39回、第40回：記念大会)①各WGの活動報告、②非破壊検査設備定期実態調査：第39回継目無管、第40回：溶接管、③特別報告：継目無管関係6件、溶接管関係6件、

④自由議題12件、⑤特別講演：第39回「(株)トキメックにおける超音波探傷装置の開発展望」

第40回：記念大会講演「大形溶接構造物の製作と非破壊検査」(株栗本鐵工所)、⑥第40回記念大会行事：小委員会のあゆみ、パネルディスカッションなど実施。

5.1.15 運輸部会(部会長：H4年7月まで、早川 茂、以降、糠澤 尚夫)

部会は年1回開催。第17回部会では、平成4年度調査小委員会調査結果の共通議題「一貫輸送と2000年鉄鋼物流」、自由議題12件を報告。

5.1.16 調査部会(部会長：青柳 桂一)

第18回1回開催。調査テーマ「我が国における鉄鋼リサイクルの現状と今後のあり方(鉄鋼リサイクル白書)」の調査計画を報告。

5.1.17 鉄鋼分析部会(部会長：佐伯 正夫)

第71回1回開催。JISとISOの審議機関の統一のため、これまで部会で行っていた標準化活動を、鉄鋼分析に関しては標準化委員会JE4分科会へ、鉄鉱石分析に関しては鉄鉱石分析標準化推進委員会(日本鉄鋼連盟)移行することを決定。

1) 化学分析分科会

2回開催。各WGの活動状況報告[①Nb-ICP、②鉄鉱石JIS改正、③鉄鉱石S赤外吸収法、④フレイムレス原子吸光、⑤Ti吸光光度法]および自由研究報告と討議。

2) 機器分析分科会

2回開催。各WGの活動状況報告[①鉄鉱石の蛍光X線分析方法の規格改正、②鉄及び鋼の蛍光X線分析方法の規格改正、③鉄及び鋼の発光分光分析方法の規格改正、④Ti合金の蛍光X線分析、⑤蛍光X線分析による鉄鉄中炭素の定量精度調査(H4年から活動)、⑥発光分光分析

法による鉄鋼中空素の定量研究(H4年から活動)]と討議、および特別講演。

3) 表面分析小委員会

2回開催。次の4つの研究テーマの実験経過報告及び討議。

①AES(Auger Electron Spectroscopy)による酸化物、窒化物、炭化物など状態変化における感度係数の決定、②XPS(X-ray Photoelectron Spectroscopy)による金属水酸化物の分析、③Cs⁺を用いたSIMS(Secondary Ion Mass Spectroscopy)定量分析、④酸化皮膜のスパッタリング収率測定

4) 析出物分析小委員会

3回開催。次の2つの共同実験方案の策定と実験の開始。

①低合金高張力鋼におけるNb-Ti複合析出物調査②2・1/4Cr-1Mo鋼の时效析出挙動調査

5) 鋼中微量炭素定量法研究小委員会

3回開催。しょ糖を用いた検量線の作成に関する共同実験経過報告と討議。

5.1.18 設備技術部会(部会長：若月 晴夫→宮嶋 進)

1) 鉄鋼設備分科会

2回開催。第46回は、共通議題「転炉排ガス処理設備の問題点と対策」、事例発表7件、自由議題8件、特別講演「我が国の宇宙開発の現状と将来」。第47回は、共通議題「生産快適化のためのコークス設備の現状と今後の課題」、事例発表8件、自由議題6件、特別講演「コークス設備技術の変遷と最新技術」、「連続アンローダについて」。

2) 圧延設備分科会

2回開催。第46回は共通議題「溶融亜鉛めっきラインの設備技術」、事例発表4件、特別講演「最近の造船技術とその動向」。第47回は共通議題「圧延設備の延命・更新」、事例発表11件、特別講演「宇宙開発と宇宙環境利用」。

5.2 特定基礎研究会(運営委員長：山口 正治)

運営委員会を2回開催し、各部会の活動報告を行った。「充填層中の気・固・液移動現象部会」が終了、平成4年度は新規に「ステンレス鋼の耐候性部会」、「表面処理鋼板の界面化合物部会」が活動を開始。

5.2.1 充填層中の気・固・液移動現象部会(部会長：八木 順一郎)

研究活動終了により、報告書の刊行とシンポジウムの実施。

研究成果報告書：「高炉下部における移動現象」、シンポジウム(9/7.8)：発表件数24件。①伝熱WG②燃焼・粉の発生WG③粉の流動と蓄積WG④固体流れWG⑤液流れWG⑥総合シミュレーションWG

5.2.2 材料電磁プロセッシング部会(部会長：浅井 滋生)

第10回、第11回部会を開催。電磁力による溶融金属流動制御(特に、モールド内の初期凝固過程の制御)と3次元電磁場解析に関する研究発表と討議を実施。また、4月には、第123回講演大会において、「直流磁界利用の科学と技術」に焦点を絞った第3回中間報告会を開催。更に、部会成果報告書作成とシンポジウム開催を準備。

5.2.3 コークス製造のための乾留制御部会(部会長：持田 勲)

次世代コークス製造技術のプロセスマージの具体化に重点を置き、2回開催。第4回部会では、研究発表8件と特別講演「日本のコークス炉の現状と炭材自給計画の動向」。第5回部会では、各WG活動のまとめを含む研究発表と討議を行い、データの相互利用と研究方針を徹底化。

5.2.4 鉄鋼の初期凝固研究部会(部会長：梅田 高照)

3回の部会を開催。初期凝固現象、鋳片表面性状等に関する研究成果の発表を実施。第4回は、研究発表5件。第5回は、研究発表6件。第7回は、研究発表6件。

5.2.5 高純度Fe-Cr合金研究部会(部会長：谷野 満)

3回開催。第3回は共同試験の進め方を審議。第4回は2WG(機械試験、腐食)および超高純度Fe-Cr合金溶製装置製作の進捗報告。第5回は高純度供試材の作製スケジュール変更に伴う共同試験計画の見直し審議および各社進捗状況の報告。

5.2.6 ステンレス鋼の耐候性部会(部会長：柴田 俊夫)

平成4年度に発足。4回開催。ステンレス鋼の使用環境の苛酷化にともない、耐候性がより優れた材料開発の基盤となる評価方法の開発

等を目的に設立。毎回話題提供3件。H4年9月から4鋼種、4表面仕上の暴露試験開始(宮古島、銚子、筑波、衣浦、期間:半年、1年)
5.2.7 表面処理鋼板の界面化合物部会(部会長:山口 正治)

H4年から発足した新規部会。鋼板のさまざまなめっきプロセスあるいはその後の熱処理によって生ずる界面化合物の結晶学、組織学、力学的特性に関する研究を行う目的で設置。3回の部会を開催。第1回は、大学側研究内容・問題点発表3件。第2回は企業側研究内容・問題点発表7件、第3回は界面密着性に関する話題提供3件。

5.3 基礎研究会(運営委員長:山口 正治)

運営委員会を2回開催。平成4年度は新規に「ミクロ組織センサー研究部会」、「高強度鋼板の疲労強度向上研究部会」が活動を開始し、11部会が活動。

5.3.1 熱プラズマ研究部会 (部会長:牛尾 誠夫)

第10回、第11回研究部会を開催。低圧アークプラズマプロセス、熱プラズマアーク、高周波熱プラズマ応用などに関する研究発表と討議を実施。また、部会成果報告書作成とシンポジウム開催を準備。

5.3.2 ベイナイト調査研究部会(部会長:荒木 透)

3回開催。低炭素鋼のベイナイト組織判定と用語の将来の統一に決め手となり得る「鋼のベイナイト写真集Vol-1」をH4年6月に刊行。また、共通試料による共同実験方案およびその中間結果について討議。

5.3.3 VAMAS材料評価研究部会(部会長:西島 敏)

VAMAS低サイクル疲労研究部会の終了に伴い、材料データベースにおけるデータ評価モデルの標準化を目的に材料データ評価モデル分科会を部会組織化。2回の部会とクリープWG、疲労WGを各5回開催し、データ評価モデルの検討と評価モデルソフトの開発を実施。

5.3.4 耐熱強靱チタン研究部会(部会長:岸 輝雄)

第9回、第10回、第11回、第12回研究部会を開催。チタンおよびチタン合金の溶解と粉末製造、熱間加工・冷間加工・成形など、新合金、疲労WG・物性WG成果報告に関する研究発表と討議を実施。また、疲労WG・物性WGをそれぞれ3回開催。更に、部会成果報告書作成準備。

5.3.5 組織制御と性質研究部会(部会長:小指 軍夫)

4回の部会を開催。各部会において組織と疲労および組織と機械的性質に関する研究発表各1件と第11回には、特別講演「低合金高張力鋼の物理冶金の諸問題」を実施。また疲労及び機械的性質に関するデータ収集WGを部会毎に開催。データ集作成に向けての検討を実施。

5.3.6 極低炭素鋼板研究部会(部会長:佐久間 健人)

4回開催。(第8～11回)極低炭素鋼板の基礎的メタラジに関する研究発表と討議を行った。部会活動終了報告書作成スケジュールは部会終了のH5年3月に論文原稿締切。6月に報告書を発刊する予定。

5.3.7 圧延ロール研究部会(部会長:木原 諄二)

2回開催。第5回は、話題提供(圧延メーカー2件、ロールメーカー1件)、特別講演「転がり疲労の機構とモードⅡ疲労き裂進展」。第6回部会は話題提供(圧延メーカー2件、ロールメーカー1件)、特別講演「圧延ロールの残留応力」。また、「ロール材質」、「ステンレス冷間圧延」の2WGが活動を開始。

5.3.8 ミクロ組織センサー研究部会(部会長:岸 輝雄)

4回開催。各部会では、結晶粒度測定に及ぼす素材要因と、計測方法(超音波、X線、電磁気等)の影響について、フェライト粒度、表面粗さ、残留応力、集合組織を変化させた各種共通サンプルで比較調査した結果の進捗報告と、話題提供1件(計4件)がなされた。

5.3.9 鉄鋼業における炭酸ガス抑制対策研究部会(部会長:小宮山 宏)

4回開催。4分野のWGを発足させ、従来技術の評価、研究課題の整理を実施。①現行の製鉄所を中心とした展開②石炭の総合的利用③低廉電力利用プロセス④CO₂の固定。

5.3.10 高強度鋼板の疲労強度向上研究部会(部会長:豊貞 雅宏)

平成4年度から発足した新規部会。4回開催。第1回は部会の設立主旨と活動計画説明、講演2件の発表と今後の進め方の検討。第2回は疲労亀裂伝播・TMC P鋼の疲労特性・薄鋼板の疲労強度向上などに関する講演3件、薄鋼板の疲労関連文献紹介10件。第3回は疲労強度向上などに関する講演3件の発表および疲労強度の決定因子推定と

向上対策検討。第4回は微小き裂の疲労き裂伝播寿命評価・疲労試験法の問題点などに関する講演2件と討論およびI I W動向報告。

5.3.11 耐火物の組織評価研究部会(部会長:濱野 健也)

平成4年度から発足した新規部会。耐火物性能の更なる向上のため、組織形態の評価技術の確立を目指すとともに、組織形態と耐火物性能との関係を明らかにすることを目的に設立。

2回開催。耐火物の組織、性能、評価に関する研究報告と討議。

5.4 鉄鋼基礎共同研究会(会長:松下 幸雄)

2回の運営委員会を開催。平成4年度は、「鉄鋼の高強度化部会」が発足。なお、本年度をもって本研究会は解消し、活動中の部会の運営は、特基研究会に統合。

5.4.1 鉄基複合材料部会(部会長:新居 和嘉)

第12回、第13回、第14回部会を開催。鉄・チタン複合材料について、オージェ電子分光、X線光電子分光、破壊靱性試験結果と接合強度測定法、爆着法に関する研究発表と討議を実施。また、4月には、第123回講演大会において、「鉄基複合材料の評価法」に焦点を絞った研究成果について、第2回中間報告会を開催。更に、部会成果報告書作成とシンポジウム開催を準備。

5.4.2 変形特性の予測と制御部会(部会長:吉永 日出男)

3回の部会、4回の研究会(部会内討論会)を開催。①組成と組織(熱履歴、変形履歴依存性)、②組織と変形特性(高温、常温)、③変形特性の定式化、④構成方程式とその応用の4WGより、合計8件の話題提供と23件の研究発表。

5.4.3 鉄鋼の表面高機能化部会 (部会長:増子 昇)

4回の部会を開催。各機関において作成したTiN、Al₂O₃等のドライコーティング材料の作成状況および評価結果の報告を実施。

5.4.4 循環性元素分離部会(部会長:佐野 信雄)

3回開催。各WGの活動状況報告[①第1WG:硫化物、硫酸塩による脱銅、②第2WG:蒸発精錬、③第3WG:スクラップ中の金属銅の分離、④第4WG:塩素利用、強還元精錬、⑤第5WG:その他の銅、錫除去の可能性検討]および討議。また、12月には新製鋼プロセスフォーラムとの合同発表会を開催。

5.4.5 鉄鋼の高強度化部会(部会長:牧 正志)

4回開催。平成4年度に、鉄鋼材料のそれぞれの分野における強度の極限追求と研究者のポテンシャル向上を目的に新規部会として発足。部会運営方法と研究方針の検討を行い、各委員の研究分担を決定。各部会毎に計8件の話題提供。

5.5 日本金属学会との共同研究

(1)金属間化合物共同研究会

日本金属学会を幹事学会とする8学協会からなる共同研究会で、研究テーマ「金属間化合物—新高温構造材料としての可能性」についてH3年10月より5年間の研究活動を開始。本年度は「セラミックスのタフニング、傾斜機能材料開発の現状、超耐環境性先進材料」、「金属間化合物の特異性」、「金属間化合物の破壊靱性」のテーマで研究会を3回開催。

(2)合金状態図共同研究会

日本金属学会を幹事学会として、資源・素材学会、科学技術庁および本会との共同研究会で、合金状態図の研究・編集を目的として、昭和61年より5年計画で発足した。平成3年度に当研究会は5年間延長した。

平成4年度には、合金状態図国際委員会(APDIC)および第21回計算状態図国際会議(CALPHAD)への参加、2回の研究会を開催し、特別講演3件、研究発表8件。

6. 技術情報事業

6.1 図書・資料事業

6.1.1 閲覧および複写サービス

(利用時間:9:30～17:00、土、日、祝日、年末・年始を除く)

(1)閲覧のできる所蔵資料

①雑誌、a.国内155種、b.海外151種

②一般図書(協会刊行物を含む)1,885点

③国際会議プロシーディングス1,323点

(2)図書室利用実績(H4年3月～H5年2月)

①閲覧者数1,670名

②借出者数158名

③複写サービス(論文件数 988 件)

複写枚数1,787枚

6.1.2 その他の情報提供サービス

(1)「鉄と鋼」(Vol.41, 1955年より)、「材料とプロセス」(Vol.1, 1988年より)のバックナンバーロールフィルムの頒布サービスを会員各社14事業所に対して実施。「ISIJ International」(Vol.1, 1961年より)ロールフィルムについて会員各社6事業所に頒布。

(2)日本鉄鋼協会共同研究会の部会、分科会資料のマイクロ化(1980年秋期分より)を実施、会員各社29事業所に頒布。またそれに付随して、日本鉄鋼協会共同研究会資料の索引誌について会員各社43事業所に頒布しているが、本資料は共同研究会加盟会社会員のみの限定頒布。

(3)学振製鋼第19委員会・製鉄第54委員会配布資料(但し、3年前平成2年度開催分)のマイクロ化を実施、会員各社22事業所に頒布。

(4)「国内学協会主催会議案内」(1980年11月より)を毎月発行し、会員各社9事業所へ頒布。

(5)「国際会議資料案内」(1989年1月より)を毎月発行し、会員各社106事業所に配布。

6.1.3 平成4年度収集資料の増加数

(1)国際会議資料(プロシーディングス)106点

6.2 情報業務事業

JICSTの科学技術文献データベースへのインプット協力事業を従来どおり行った。

(1)抄録件数 4,690件

(2)校閲件数 5,372件

6.3 著作物等の頒布

H4年4月より資料・情報頒布サービスの一環として本会刊行物の頒布業務は編集・業務室より鉄鋼技術情報センター図書・資料室に移管。

本会刊行物頒布の合理化のための刊行物・定期刊行物の在庫管理・発送の業務委託が完了。現在購読者管理の名簿管理システムへの参入・頒布業務のコンピュータ処理のシステム化を検討・構築。

その他次のとおり本会ロゴ製品を完成・頒布。

ネクタイ スカーフ ネクタイピン タイタック

ペンケース 抹茶茶碗

7. 標準化事業

標準化をめぐる国内外の急激な環境変化に対応し、効率的な標準化活動を推進するため標準室とISO事務局を統合した鉄鋼標準化センターがH4年4月に発足。鉄鋼標準化事業中長期計画の基本方針を定め、これに基づき作成した中長期計画に従って鉄鋼標準化センター運営委員会、標準化委員会及び鉄鋼標準試料委員会において標準化活動を実施。

7.1. 標準規格作成事業

7.1.1. 国内規格作成活動

標準化委員会各分科会では新組織運営方針、長期計画を策定したほか、次の活動を行った。

(1)JP 1分科会(構造用鋼関係)

JIS H形鋼ぐい及び熱間圧延鋼矢板の見直し審議。また、JIS制・改正に対するニーズ調査実施。

(2)JP 2分科会(圧力容器用鋼関係)

高強度Cr-Mo鋼のJIS化について検討審議。

(3)JP 3分科会(薄板関係)

JISほうろう用脱炭鋼板及び鋼帯の見直し審議とISO規格との整合性を検討。

(4)JP 4分科会(特殊鋼関係)

JIS高温用合金鋼ボルト材等2規格の見直し審議と次回の国際会議対

応の準備作業を実施。

(5)JP 5分科会(線材関係)

製品ごとに3 WGを組織し対応。JIS PC鋼棒の見直し及びISO/TC 17/SC 16のWD審議を実施。

(6)JP 6分科会(鋼管関係)

JIS 29規格についてISO規格との整合性チェックを含め精力的に見直し作業を行い、確認10件、改正18件、廃止1件、ステンレス鋼管 6 件(G 3446機械構造用ステンレス鋼鋼管他 5 件)他 3 件の計 9 規格のJIS改正原案を作成。

(7)JP 7分科会(油井・油送管関係)

取り扱う対象JISはない。ISO/TC 67関係のISO規格作成のための国際会議に対応。

(8)JE 1分科会(基本規格関係)

担当JISの妥当性と今後の進め方検討。試験片採取の国際規格原案について討議。

(9)JE 2分科会(機械試験方法関係)

JIS改正原案 6 件(G 0567金属材料及び耐熱合金の高温引張試験方法他5件)の再確認。また、JIS Z 2201(金属材料引張試験片)他 2 件の見直し審議及びn値、r値 2 件のJIS新規原案作成審議を開始。

(10)JE 3分科会(鋼質判定試験方法関係)

JIS G 0551(オーステナイト結晶粒度試験方法)他 7 件の見直し審議。

(11)JE 4分科会(鉄鋼分析)

1)共同研究会・鉄鋼分析部会にて行われていたJIS原案審議をH4年10月より当標準化委員会に移行。

2)G 1257原子吸光分析法等 9 件のJISの見直しを行い、内 8 件の改正原案を作成。また、ISO 4940ニッケルの原子吸光法等 9 件のISO規格を翻訳規格としてJISに挿入。

(12)JE5分科会(非破壊試験関係)

JIS G 0801(圧力容器用鋼板の超音波探傷方法)他 4 件の見直し審議を実施。

(13)SI単位小委員会

JISのSI単位切り換えに伴う数値の丸め方の問題、及び計量法改正(猶予7年)に伴う将来の試験機等の問題についての対応の検討。

7.1.2. ISO規格審議活動

(1)標準化委員会では、34件の国際規格原案(DIS、CD)について投票し、日本コメントを作成した。

(2)以下のISO国際会議に出席し、国際規格原案の審議に参画して日本意見の反映につとめた。

①ISO国際会議にはTC 17(鋼)／SC 9(ぶりき及びぶりき原板)をはじめ17のTC、SC、WG会議に延べ36名(内TC 67/SC 5神戸会議13名)の代表が出席した。

②幹事国を引き受けている第14回TC 17/SC 1(鉄鋼分析)国際会議が6月15日より5日間ロンドンで、また第2回TC 67/SC 5(油井管)国際会議が10月21日より3日間神戸で、それぞれ開催され成果をおさめた(詳細は7.2.2および7.2.3参照)。

- ・TC 5(金属管及び継手)チューリッヒ 5月22日
- ・TC 5/SC 1(鋼管)チューリッヒ 5月21日
- ・TC 17/SC 1(鉄鋼分析)ロンドン 6月15/19日
- ・TC 17/SC 9(ぶりき及びぶりき原板)ロンドン 5月27/30日
- ・TC 17/SC 19(圧力鋼管の技術的取引条件)ミラノ 9月16/18日
- ・TC 17/SC 19/WG 1(非破壊試験)ミラノ 5月6/8日
- ・TC 17/SC 20(一般技術取引条件、サンプリング及び機械試験方法)パリ 4月27/30日、ベルリン 11月3/6日
- ・TC 67(石油及び天然ガス工業用材料及び装置)総会 ロンドン 10月1/2日
- ・TC 67/WG 2(認証方針)ミラノ 7月15/17日、ロンドン 9月29日
- ・TC 67/SC 1(ラインパイプ)デュッセルドルフ 9月28/30日
- ・TC 67/SC 5(油井管)神戸 10月21/23日
- ・TC 67/SC 5/WG 1サンディエゴ6月4日、神戸10月19/20日
- ・TC 164(金属の機械試験)/SC 1(単軸試験)パリ 9月15/16日
- ・TC 164/SC 3(硬さ試験)パリ 9月17/18日

(3)ほう素定量方法(G 1227)のうち「極微量ほう素－蒸留吸光光度法」をISO化するための「提案型国際規格案件」として工技院より委託され、原案作成中。本件はTC 17/SC 1ロンドン会議において日本がコンピーナーに決定。

7.2 ISO幹事国事業

7.2.1 ISO/TC 17幹事国業務

最重点項目は、H 3 年11月に行われた第17回TC 17総会の成果の実施及び平成 5 年度開催の第 8 回TC 17/EC会議の準備。

(1)ISO規格案件の進捗状況

平成 4 年度に発行されたISO規格は14件で、ほぼ例年並み。

(2)第17回TC 17総会決議事項の実施状況

主な決議事項の実施状況を以下に述べるが、ほぼ計画どおりに進捗。

1)製品規格への分析方法に関するISO/TR 9769の引用。

各SCへ文書で指示徹底済み。あわせて遵守状況をDISで調査中。

2)TC 17/WG 19(溶接棒用線材)のコンピーナー再募集。

質問状による投票実施。結論としてコンピーナーの申出なくWG解散、作業項目を削除。

3)TC 17/WG 20(オイルテンパー線)、ISO 8458-3が発行されたら解散。

日本がコンピーナーになって進めてきた案件でISO規格として発行。WG 20の解散を通知。

4)迅速なISO規格発行のため、DISのフロッピーディスクを中央事務局へ送ることの徹底。

各SCへTC 17 N ドキュメントで指示済み。実施状況フォロー中。

5)ISO/TC 17のStrategic policy statementの将来作業項目に関する内容の見直し。

一次改正案作成完了。

6)ISO/TC 17/SC 8のSecretariatをイギリスへ委嘱する件。

イギリスとの事前調整後TC 17内の投票実施。イギリスにSC 8 Secretariatを 9 月に委嘱。

7)ISO/TC 17/SC 17 Secretariatに中国が委嘱された件。

昨年新規にSC 17 Secretariatになった中国への支援も含めてフォロー中。

8)ISO 9000の改正状況(TC 176)のフォロー。

調査の結果、1992年改正は微小修正のみで1996年まで大幅な改正のないことが判明。鉄連で検討されたISO 9000シリーズのSteelに関するガイドをISO/TC 17の場に持ち出すことを検討中。

9)ISO製品規格作成のガイド作成。

一次原案作成完了。1993年開催のEC会議で討議の予定。

(3)第 8 回TC 17/EC会議準備

1)会議開催

日時：1993年 6 月 9 ～10日

場所：パリ

主要議題：①TC 17のStrategic policy statementについて

②製品規格作成のガイドライン

③TC 17内ISO規格作成の生産性について

④TC 17総会とEC会議のあり方

⑤TC 17用ISO 9000シリーズ補足規程の検討

2)準備

討議用資料準備完了。事前協議のため、12月 6 ～20日欧州訪問、H 5 年 1 月23～31日北米訪問。

(4)TC 17内SCの支援活動

1)各SC開催の国際会議出席及びQuarterly Report発行を通じてSCの活動を支援。

2)国際会議出席：SC 9(ロンドン)、SC 19(ミラノ)、SC 20(ベルリン)

3)Quarterly Report：業務とのバランスで 4 回／年で 3 回／年に減らし、3 報発行。

(5)海外出張

SC国際会議、EC会議の準備及びSC 17幹事国(中国)支援のため、延べ10名海外へ出張。

7.2.2 ISO/TC 17/SC 1 幹事国業務

(1)ISO/TC 17/SC 1 第14回国際会議の開催 1992-06-15/19 於 London/UK

12カ国、39名が参加。中国及び中央事務局員の初参加。佐伯議長(新日鉄)日本代表として小野(新日鉄)、河村(コベルコ科研)、事務局より2名を派遣。日本は2ワーキンググループのコンピーナーをつとめた。新作業項目が加わり今後日本は3ワーキンググループのコンピーナーをつとめる。

(2)ICASI(International Committee of Analysts of Iron and Steel Industry: 国際鉄鋼分析委員会) 第 1 回国際会議開催 1992-06-12 於 Scarborough/UK

国際鉄鋼分析者の国際的連携を強化するためISO/TC 17/SC 1 国際会議に合わせ開催され、11ヶ国・19人が参加。その議長及び事務局をISO/TC 17/SC 1の議長及び事務局が各々担当。

(3)ISO/TC 17第14回国際会議にて、現在進行中の次の11件のCDに対する審議を実施。うち 7 件が完了、1 件中止、3 件が継続審議。

CD 10278	マンガン－プラズマ分光法	完了
CD 10697-2	全カルシウム－原子吸光法	完了
CD 10719	遊離炭素－燃焼赤外線吸収法	完了
CD 10699	アルミニウム－原子吸光法	中止
CD 10700	マンガン－原子吸光法	完了
CD 10701	硫黄－吸光光度法	完了
CD 10720	窒素－融解導電率法	継続
CD 439	けい素－重量法	完了
CD 11652	コバルト－原子吸光法	継続
CD 10653	コバルト－電位差滴定法	継続
CD 4941	モリブデン－吸光光度法	完了

微量炭素定量方法に関する情報収集のためのad hoc groupはその目的を達成したので解散。

(4)新規作業項目

新しいニーズに対応するため次の新規作業項目を設定。

1)微量元素定量法の規格化

2)より能率のよい基準分析法の規格化

3)ISO 9000シリーズ普及に伴う品質保証体制強化のため、発光分光法等の日常法の規格化

4) 分析機器ガイドライン、サンプリング等の規格化

具体的には

WG 32	ニッケル、銅、コバルト－プラズマ分光法
WG 33	モリブデン、ニオブ、タングステン－プラズマ分光法
WG 34	微量ほう素－吸光光度法
WG 35	微量ほう素－プラズマ分光法
WG 36	高含有硫黄－燃焼赤外線吸収法
ad hoc group 1	微量炭素－抵抗炉燃焼赤外線吸収法
ad hoc group 2	蛍光X線分析法－化学物質での検量線作成法
Study group	日常作業分析法－発光分光法、蛍光X線分析法
Joint WG	分析機器ガイドライン (フレイム原子吸光法、プラズマ分光法、無炎原子吸光法)
Joint WG	サンプリング (ISO 377-2の改正)

(5)ISO規格の発行

ISO 10697-1	酸可溶カルシウム－原子吸光法
ISO 10714	りん－吸光光度法

(6)DISの登録

DIS 10698	アンチモン－原子吸光法
DIS 10702	窒素－蒸留滴定法
DIS 10697-2	全カルシウム－原子吸光法
DIS 10700	マンガン－原子吸光法
DIS 10701	硫黄－吸光光度法

(7)他TC/SC との共同作業による規格作成作業の継続

1)ISO 377-2 (分析試料の採取と調製)の改正に当たってはISO/TC 17/SC 20のワーキンググループとして原案を作成。

2)分析機器ガイドラインの規格化に当たってはISO/TC 47/SC 1, ISO/TC 102/SC 2, ISO/TC 155/SC 3 & SC4を纏めて共同作業化を図り、且つワーキンググループのコンビーナーとして原案の作成。

(8)規格作成の能率向上

SC1会議直後に編集委員会を開催し、中央事務局編集員とSC1編集員、コンビーナーとの編集に関する意思疎通を行いCD最終版作成の能率向上を図った。これにより前述のDIS 10697-2, DIS 10700, DIS 10701については予定より早く1992年度中に登録された。

(9)欧米の規格作成委員会とのliaison強化

ASTM E-1委員会(金属分析)からの招待を受け会議に出席(1992-10-11/15)。ISOに対する意識高揚を図るとともに、国際規格化に対する意志疎通を図った。

(10)ISOとJISの整合化

1)ISOとJISの平行審議が出来るように組織改正、テーマの整理・選択を行った(標準化委員会と共同研究会間の業務調整)。

2)積極的にJIS案をISO原案として提言を行うと共にコンビーナーを引受けた。

微量ほう素—吸光光度法	日本コンビーナー及びJIS案提案
コバルト—原子吸光法	日本コンビーナー及びJIS案提案
微量炭素—抵抗炉燃焼赤外線吸収法	日本コンビーナー及び日本案提案

(11)海外出張

SC1国際会議開催及びコンビーナー支援のため延べ7名海外へ出張。

7.2.3 ISO/TC 67/SC 5幹事国業務

(1)TC 67/SC 5 Pメンバーの増強

Pメンバー増強の結果として、アルゼンチン、中国、デンマーク、ルーマニア及びロシアが新たに参加、現在合計15カ国。

(2)TC 67/SC 5/WG 1の活動

第1回TC 67/SC 5国際会議(1992年6月)にてWG 1の設置を決定後、WG 1は4回会議を開催し、1年4ヶ月の異例の早さでAPI Spec 5CT相当の油井管ISO規格原案CD 11960を取りまとめた。

(3)ISO/TC 67/SC 5第2回国際会議の開催 1992-09-21/23、神戸

8カ国27名が参加。中国及びルーマニアが初参加。

1)WG1の活動について

CD 11960(API Spec 5CT相当)のDIS登録とISO規格として発行後毎年見直しを決定。API Spec 5D(ドリルパイプ)より範囲を広げた溶接ツールジョイント付ドリルパイプのISO規格原案作成を決定。

2)WG 2の設置

TC 67/SC 5担当のAPI document 9件の中に、API RP5C5油井管継手性能評価試験のみのISO化を決定。WG 2(コンビーナー：ドイツ)の設置を決定。

3)WG 3の設置

API規格にない高合金鋼及びNi合金の耐食性油井管のISO原案作成のためWG 3(コンビーナー：イタリア)の設置を決定。

4)次回国際会議

1993-09-20/21、デュッセルドルフ

(4)海外出張

TC 67総会出席のため2名海外へ出張。

7.3 鉄鋼標準試料事業

(1)鉄鋼標準試料の製造状況

更新品：14品種 分析中：11品種

(2)新製品の開発

- 1)超高純度鉄(不純分20ppm以下)試料
- 2)微量元素シリーズA(機器分析用試料8種1組)
- 3)極微量炭素含有鋼シリーズ(化学分析用試料4品種)

(3)国際協力

1)今後CRMに関する業務効率化をねらって中国との交流を始め、10月に佐伯委員長が訪中してCRMに関する情報の交換を行い、更に試料の交換や相互分析の計画等について討議。

2)NIST(USA)に協力した高純度鉄が、SRM 1768及びSRM 2168として頒布。

(4)組織及び業務委託関係

1)鉄鋼協会の標準化事業体制強化に伴う鉄鋼標準化センターの設立によって、鉄鋼標準試料委員会関係業務もセンターの業務として位置づけられた。

2)頒布、代金回収、認証値決定分析結果の計算、印刷等の業務を4月より川鉄テクノロジー(株)に委託。

V. 特別会計による事業

1. 特別資金会計による事業

1.1 表彰

1.1.1 H4.4.1 第77回通常総会において表彰式を行い、下記のとおり表彰した。

(1) 渡辺義介賞

山本 全作 新日本製鐵(株)常任顧問
「わが国鉄鋼業の進歩発展、特に製鋼技術の発展と鉄鋼生産プロセスの進歩」

(2) 西山賞

田中 良平 東京工業大学名誉教授、(株)超高温材料研究センター技術顧問
「ステンレス鋼、耐熱鋼および超耐熱合金の基礎的研究」

(3) 服部賞

笠原 美三 住友金属工業(株)専務取締役
「わが国製鉄設備技術の進歩発展と最新鋭の高生産性総合製鉄所の実現」
柳澤 忠昭 川崎製鉄(株)専務取締役
「熱間圧延技術の進歩発展と高効率一貫製鉄所の構築」

(4) 香村賞

杉田 清 新日本製鐵(株)フェロー
「鉄鋼用耐火物技術の進歩発展」
松原 博義 トーア・スチール(株)取締役副社長
「厚鋼板・UOE鋼管製造技術の進歩発展と高機能鋼材の開発」

(5) 渡辺三郎賞

井上 正文 三菱製鐵(株)常務取締役
「高合金鋼の製造並びに加工技術の進歩発展」
瀬戸 浩蔵 山陽特殊製鐵(株)専務取締役
「高品質特殊鋼の開発普及」

(6) 野呂賞

住田 俊光 中国鉄鋼業協会顧問
「学会活動の支援と中国地区鉄鋼業発展への寄与」
細井 祐三 名古屋大学工学部材料機能工学科教授
「協会運営とくに講演大会、各種委員会活動等に関する貢献」
松尾 宗次 (株)日鉄技術情報センター主席研究員
「協会活動とくに欧文会誌の国際的学術誌としての拡充への貢献」

(7) 渡辺義介記念賞

大森 尚 川崎製鉄(株)取締役水島製鉄所副所長
「製鋼技術の進歩発展と生産方式の高度化」
菊地 晋 (株)神戸製鋼所 取締役鉄鋼事業本部販売本部副本部長
「薄板生産体制の確立と新製品の商品化の推進」
小林未子夫 日本ステンレス(株)技術本部支配人
「ステンレス鋼、高合金及びチタンの腐食防食研究並びに新材料開発」
近藤 徹 川崎製鉄(株)取締役鉄鋼企画本部副本部長
「薄鋼板製造技術の進歩と発展」
斎藤 實 日本高周波鋼業(株)専務取締役、技術開発本部長
「軸受鋼鋼線と工具鋼の生産技術の確立」
櫻井 昭二 水島合金鉄(株)監査役
「電気炉によらない高・中・低炭素フェロマンガ吹錬技術の確立」
澁谷 悌二 日本鋼管(株)取締役新材料事業部担当
「製鉄技術の進歩発展」
角南 達也 新日本製鐵(株)ステンレス鋼技術部長
「ステンレス鋼製造技術の進歩発展、特に一貫製造技術の確立」
末光 敬正 新日本製鐵(株)アイ・エヌプロジェクト技術班長
「鋼板表面処理技術の向上及び新商品の開発」
塚田 尚史 (株)日本製鋼所 取締役室蘭製作所副所長
「大型素形材製品の製造並びに品質管理技術の進歩発展」

鍋丁 雍彦 日新製鋼(株)取締役市川製造所長
「ステンレス鋼板・表面処理鋼板の生産技術の向上発展と海外技術協力」

野間吉之介 日本鋼管(株)薄板技術開発部長

「薄板製造技術の進歩発展」

光武 紀芳 (株)神戸製鋼所 取締役鉄鋼事業本部生産本部副本部長
「鉄鋼生産における生産・物流システム及び条鋼生産技術の進歩と発展」

吉谷 正治 (株)中山製鋼所 取締役、環境・エネルギー総括部長
「製鉄所動力設備の高効率化と環境改善技術の進歩発展」

芳木 通泰 住友金属工業(株)鉄鋼技術部長

「製鉄技術の発展向上」

(8) 西山記念賞

井口 学 大阪大学工学部材料開発工学科助教授

「ガス吹込み反応容器内の輸送現象に関する基礎的研究」

石川 圭介 金属材料技術研究所 筑波支所第1研究グループ第6サブグループリーダー

「極低温用構造材料の開発及び評価に関する研究」

磯部 晋 大同特殊鋼(株)研究開発本部特殊鋼研究所長

「耐熱材料、耐食材料の研究開発」

牛尾 誠夫 大阪大学溶接工学研究所教授

「熱プラズマ挙動の解析と電極の開発」

児玉 英世 (株)日立製作所 日立研究所第5部部长

「凝固制御技術の鉄鋼への応用に関する研究」

須藤 正俊 (株)神戸製鋼所 鉄鋼事業本部生産本部加古川製鉄所鋼板開発部主任部員

「薄鋼板及び高炭素鋼線の材料学的基礎研究並びに新製品の実用化研究」

谷口 尚司 東北大学工学部金属工学科助教授

「製鉄プロセス内の基礎的移動現象に関する研究」

友田 陽 茨城大学工学部物質工学科教授

「鉄鋼における相変態・ミクロ組織と力学的特性の関係に関する研究」

永田 和宏 東京工業大学工学部金属工学科助教授

「高温冶金反応の非平衡熱力学的研究」

福島 久哲 九州大学工学部材料工学科教授

「高耐食性亜鉛合金めっきの電析機構に関する研究」

三吉 康彦 新日本製鐵(株)技術開発本部鉄鋼研究所表面処理研究部主幹研究員

「鉄鋼材料の表面処理および腐食に関する研究」

溝口 庄三 新日本製鐵(株)技術開発本部プロセス技術研究所製鋼プロセス研究部長

「高純度鋼の連続鋳造法の研究」

森田 喜保 住友金属工業(株)研究開発本部上席研究主幹

「各種鉄鋼製品の開発並びに製造設備強度の研究」

吉田 豊信 東京大学工学部金属工学科教授

「プラズマプロセッシングに関する研究」

渡辺 馨 日本鋼管(株)技術総括部管理室長

「薄鋼板のプレス成形性向上と連続焼鈍による絞り用鋼板の開発」

1.1.2 H4.10.6 第124回講演大会式典において表彰式を行い、下記のとおり表彰した。

(1) 浅田賞

片瀬 伝治 黒崎窯業(株)常任顧問

「不定形耐火物及び不定形耐火物施工機器の開発」

(2) 俵論文賞

岩永 祐治 住友金属工業(株)総合研究開発センター企画調査室

「未燃焼微粉炭の高炉内挙動に関する基礎的検討」

韓 業 韜 名古屋大学

澤田 義 ”

加藤 将和 ”

佐野 正道 ”

「低酸素分圧のAr-O₂混合ガス吹付けによる低炭素濃度溶鉄の脱炭及び酸素吸収」

内田 淳一 住友金属工業(株)

津田 哲明 “

山本 康博 “

瀬戸 宏久 “

阿部 賢 “

渋谷 敦義 “

「塩化物溶融塩浴からの非晶質Al-Mn合金電析」

高橋 渉 住友金属工業(株)

岡田 稔 “

志田 善明 “

中西 睦夫 “

「チタンへの炭化物分散による耐摩耗生改善」

加藤 嘉英 川崎製鉄(株)

中戸 参 “

藤井 徹也 “

大宮 茂 “

高取 誠二 川鉄システム開発(株)

「RH真空脱ガス装置の取鍋内溶鋼流動と脱炭反応」

(3)澤村論文賞

榎本 正人 金属材料技術研究所

吉田 忠史 芝浦工業大学

「Solute partitioning during the proeutectoid α transformation in Ti-X₁-X₂ alloys」

三浦 潔 住友金属工業(株)

井上 恵三 “

高谷 幸司 “

西岡 邦彦 “

「Analysis of steam flow in coke oven chamber by test coke ovens and a two-dimensional mathematical model」

Abdellatif Laasraoui Hatch Associates Ltd, Canada

John J. Jonas McGill University, Canada

「Prediction of temperature distribution, flow stress and microstructure during the multipass hot rolling of steel plate and strip」

(4)三島賞

徳永 洋一 九州大学工学部材料工学科教授

「高合金鋼の加工熱処理に関する研究」

中岡 一秀 日本鋼管(株)特別主席

「薄鋼板における組織制御の基礎研究とその工業化」

本間 基文 東北大学工学部材料物性学科教授

「高性能磁石材料の開発に関する研究」

(5)林賞

福本 一郎 山陽特殊製鋼(株)取締役生産本部製鋼部長

「特殊鋼電気炉製鋼の高品質化と高生産性の確立」

(6)山岡賞

製錬新基盤技術研究組合 溶融スラグ顕熱総合回収技術委員会

「高炉溶融スラグ顕熱総合回収技術の研究開発」

日本鉄鋼協会標準化委員会 ISO鉄鋼部会SC1分科会

「鉄鋼分析方法の国際標準化における主導的貢献」

(7)里見賞

橋本 功二 東北大学金属材料研究所教授

「超耐食アモルファス合金の発見とその表面被覆への応用」

1.2 湯川メモリアルレクチャー並びに湯川記念講演会の開催

(1)湯川メモリアルレクチャー H4.4.1 ザ・クレストホテル津田沼 15:10~16:20

「Striving for More and Better Steel-Behind Closed Door and in the Open-」

中国冶金工業部鋼鉄研究総院教授・技術顧問 邵 象 华

「Analogue Diagrams for Process Metallurgists」

Chemical Metallurgy, École Centrale Paris Prof. André Rist (フランス)

(2)湯川記念講演会 本部主催のものはなし。支部主催のものはⅥ。支部に記載。

1.3 石原・浅田研究助成金

次の2件の研究に対し助成金を交付を決定。

①溶融金属中の非金属介在物の結晶成長

安田 秀幸(大阪大学工学部助手)

②原子間力顕微鏡による単結晶Cu表面へのNiZnの電析初期過程のin-situ観察

池宮 範人(大阪大学工学部助手)

1.4 日向方学術振興交付金

第18回、第19回分として受給者を下記のとおり決定。

(第18回)

①篠原 嘉一 金属材料技術研究所研究員

第2回傾斜機能材料国際シンポジウム

1992年11月1日~6日

サンフランシスコ(アメリカ)

②高須 登実男 名古屋大学大学院 工学研究科博士課程後期1年

環境保全のための電磁流体プロセス

1992年6月22日~28日

キエフ(ウクライナ)

(第19回)

①榎 学 東京大学 先端科学技術研究センター講師

第8回国際破壊会議

1993年6月8日~14日

キエフ(ウクライナ)

②葛西 栄輝 東北大学 素形工学研究所助手

第3回実験伝熱・流体・熱力学国際会議

1993年10月31日~11月5日

ホノルル(アメリカ)

③新家 光雄 豊橋技術科学大学 生産システム工学系助教授

1993年疲労国際会議

1993年5月3日~7日

モントリオール(カナダ)

④寛 幸次 東京都立大学工学部 精密機械工学科助手

第5回工業材料と構造物のクリープと破壊に関する国際会議

1993年3月28日~4月2日

スワンジー(イギリス)

1.5 浅田記念文庫の寄贈

29大学に対し以下の記念文庫を寄贈した。

浅田文庫 第240号「材料とプロセス」Vol.5 No.1-No.3

第241号「材料とプロセス」Vol.5 No.4-No.6

第242号「第143・144回西山記念技術講座テキスト」

第243号「第145回西山記念技術講座テキスト」

第244号「第22回白石記念講座テキスト」

第245号「第23回白石記念講座テキスト」

第246号「鋼のベイナイト写真集-1」

第247号「戦後復興期におけるわが国鉄鋼技術の発展」

第248号「戦後復興期におけるわが国鉄鋼技術の発展-資料編」

第249号「第146回西山記念技術講座テキスト」

1.6 戦後技術史調査事業

「戦後復興期におけるわが国鉄鋼技術の発展」は11月上旬に刊行。

1791部関係方面に寄贈。資料編は、H5年2月に刊行。

1.7 鉄鋼研究振興助成金

次の20件の研究に対し助成金の交付を決定。

①溶融金属中介在物粒子の粒径分布と介在物除去速度の関係に関する研究

平沢 政広(名古屋大学工学部)

②還元反応-ガス化反応相互活性化現象のメカニズム解明

柏谷 悦章(北海道大学工学部)

③充填層内の炭材燃焼過程における各種窒素酸化物発生メカニズムお

よび発生量抑制法の検討

葛西 栄輝(東北大学素材工学研究所)

④アンモニア侵出による鉄スクラップの脱銅

河原 正泰(熊本大学工学部)

⑤溶湯形状制御法の確立のための三次元有限要素解析法の開発

河瀬 順洋(岐阜大学工学部)

⑥押出し加工を応用した粉末材料のニア・ネット・シェイプ加工法の開発

星野 倫彦(東京理科大学基礎工学部)

⑦塩化物系溶融塩浴からのアルミニウム合金の電析

秋山 徹也(九州大学工学部)

⑧高機能表面創製法としての分散めっき法に関する研究

林 秀考(岡山大学工学部)

⑨衝撃エネルギーを利用した各種合金系におけるメカノケミカル反応に関する基礎的研究

西田 稔(熊本大学工学部)

⑩新しい規則構造を有する鉄基化合物超薄膜の創製とその光磁気特性

中嶋 英雄(岩手大学工学部)

⑪廃酸からの高機能鉄超微粒子複合材料の開発

大塚 康夫(東北大学反応化学研究所)

⑫ステップライク速度漸減式ボールミリングによる金属-半金属系非晶質合金の作製

小川 英典(産業技術短期大学材料工学科)

⑬高純度鉄鋼材料の粒界ミクロ・ケミストリー変化に伴う粒界脆化とその抑制機構に関する研究

木村 晃彦(室蘭工業大学工学部)

⑭組織制御によるB2型NiAl基合金の延性改善

石田 清仁(東北大学工学部)

⑮二相ステンレス鋼における($\alpha + \gamma$)二相組織形成に及ぼす核生成場所の影響

鮎山 恵(立命館大学理工学部)

⑯フェライト中の炭素および窒素と第三元素の相互作用の解明

沼倉 宏(京都大学工学部)

⑰腐食電位振動を用いた低濃度塩化物水溶液における応力腐食割れ誘導時間の予測

井上 博之(大阪府立大学工学部)

⑱複合組織鋼に存在する残留オーステナイトの安定性に及ぼす各種因子の影響に関する基礎的研究

杉本 公一(信州大学繊維学部)

⑲極低炭素鋼の変態のカイネティクスとこれに対する熱間加工の影響

矢田 浩(静岡理工科大学理工学部)

⑳コンピューターによる鉄鋼材料の変態組織予測

榎本 正人(茨城大学工学部)

2. 補助金等事業会計による事業

2.1 鉄鋼二次製品生産設備実態調査

通産省の委託を受け、4年毎に行われる調査。調査委員会(委員長:島田 仁)と幹事会および20部会を設け、28品種についてH4年9月末日における実態調査を行った。本調査の経費は日本小型自動車振興会からの補助金、本会並びに鉄鋼二次製品団体の分担金に拠った。

2.2 日本压力容器研究会議

材料部会、施工部会、設計部会の3部会で構成。当協会は材料部会(部会長:荒木 透)を担当。材料部会は次の4専門委員会と1連絡会が活動。

1)非破壊試験専門委員会

4回開催。大形試験体の集束探触子を用いた超音波探傷試験の実施結果、および欠陥部の切断方法に関する討議。

2)压力容器用鋼材専門委員会

3回開催。新規共同研究テーマとして、「構造用鋼の冷間加工性」を取上げることが決定し、試験計画を策定、試験開始。

3)水素脆化専門委員会

TG6は4回開催。共同研究テーマ「C-1/2Mo鋼水素侵食材の材料評価」試験を予定どおり実施中。TG7は4回開催。压力容器用鋼の水素脆化感受性の調査のため、①文献調査、②ファブリケーター等からの話題提供を実施。文献調査については、約40件の重要文献抄録の作成を完了。

4)データ収集委員会

5回開催。「Cr-Mo鋼の経年劣化材料データベースの構築」を行うべくメタデータフォーマットの検討と修正、文献調査の継続、データブック作成の推進。

(5)MPC委員連絡会

米国MPC(Materials Properties Council)に対応する活動を行うための組織として、H4年9月にMPC委員連絡会を材料部会内に発足させ、2回開催。当面、MPC関連の幅広い情報交換と戦略的対応の検討を実施。

2.3 新環境統合都市研究委員会

地球環境に対する危機意識は、このところとみに強くなってきている。地球規模で情報化社会が拡大していくのとは裏腹にエネルギー問題、環境問題はより深刻化の度合いを高めている。こうした背景から、(社)日本機械工業連合会の委託を受けて、当協会内に「新環境統合都市研究委員会」(委員長:三宅理一)をH3年9月に発足させ、自律的なエネルギーコントロールシステム等を備えた都市モデルを研究し、H4年5月にその活動を終了した。その間、委員会を8回開催し、H4年5月には報告書「環境と調和した自律型リサイクル地域・都市システム及び構造材料に関する調査研究」を刊行した。

VI. 支部

1. 事業

1.1 北海道支部

1) 運営関係

- (1) 総 会 H4.6.18
 (2) 評議員会 2回開催。 H4.6.18、11.26
 (3) 理 事 会 3回開催。 H4.6.18、9.18、H5.2.17

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主な内容
素材製造技術研究会第1回	日本金属学会北海道支部	H4.7.10	北海道大	特別講演1件、一般講演5件
〃 第2回	〃	H4.12.4	室蘭工大	特別講演1件、一般講演4件
鋼材・新素材研究会第1回	〃	H4.8.18	室蘭工大	特別講演1件、一般講演4件
〃 第2回	〃	H5.1.14	北海道大	特別講演1件、一般講演4件

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講師等	参加者数
湯川記念講演第1回	日本金属学会北海道支部	中 止			
〃 第2回	〃	H4.11.26	室蘭工大	松山 晋作	
春季講演大会	〃	H4.6.18～19	北海道大学		
秋季講演大会	〃	H4.11.26～27	室蘭工大		

(3) その他 支部創立50周年記念行事

1.2 東北支部

1) 運営関係

- (1) 理事会 2回開催。 H4.7.6、H5.2.24

2) 事業関係

(1) 研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主な内容
第1回素材工学研究所 研究懇談会	資源・素材学会東北支部	H4.11.2	東北大学素材研	
第6回プロセス工学研究会		H5.2.26	東北大学工学部 青葉記念会館	材料プロセス内移動現象のシミュレーション
第1回高純度ステンレス研究会		H4.12.4	東北大学金研	ステンレス鋼の諸特性に及ぼす高純度化の影響

(2) 講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講師等	参加者数
湯川記念講演会		H4.7.6	東北大学工学部	森田善一郎 阿部 光延	約80名
第1回地区講演会	日本金属学会東北支部	H4.10.23	岩手大学工学部	井口 泰孝 藤森 啓安	約50名
第29回金属関係六学協会 東北支部連合シンポジウム	日本金属学会、溶接学会 日本鋳物協会、資源・素材 学会各東北支部、軽金属 学会東北センター	H4.11.27	東北大学工学部 青葉記念会館	小指 軍夫 大谷 泰夫 大西 敬三 太田 定雄 高橋 延幸 橋本 修	約100名
第2回地区講演会	日本金属学会東北支部	H5.1.29	秋田大学鉱山学部	松浦 圭助 加茂 勝秋	約50名
特別講演会	日本金属学会、日本鋳物協会 溶接学会各東北支部 軽金属学会東北センター 日本金属学会 資源・素材学会 日本化学会 各東北支部	H4.9.18 H5.1.22	東北大学工学部 東北大学素材研	M.Rappaz 飯島 澄男 春田 正毅 大塚 研一 杉本 忠夫	約30名

1.3 北陸支部

1)運営関係

- (1)総 会 2回開催。H4.6.1、12.12
 (2)評議員会 2回開催。H4.6.1、12.12
 (3)理 事 会 2回開催。H4.6.1、12.12

2)事業関係

(1)研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主な内容
富山地区「材料部会」		H4. 7. 8	富山大学	課題テーマ討論会
富山地区「材料部会」		H4. 8.26	富山大学	研究発表10件
富山地区「材料部会」		H4.11.9	富山大学	課題テーマ討論会
富山地区研究会	日本材料学会北陸信越支部	H4.12.1	富山大学	腐食・腐食疲労関連
富山地区研究会	富山県セラミックス研究会	H5. 2.1	高志会館	生物に学ぶ材料の知能化
富山地区「材料部会」		H5. 2.16	高志会館	研究発表10件

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講師等	参加者数
湯川記念講演会	日本金属学会 北陸信越支部	H4. 6. 1	新潟県妙高簡 易保険保養センター	松井 正顕 風間 典昭	約50名
(本多光太郎記念特別講演会)	(日本金属学会主催)	(H4.12.12)	(福井工業大学)	(柚原 俊一)	(約120名)
支部連合講演会	日本金属学会北陸信越支部	H4.12.12	福井工業大学	研究発表会 展示会	

(3)その他の事業

- 平成4年日本金属学会・日本鉄鋼協会秋季講演大会
 ・学術講演(H4.10.6～8 富山大学)
 ・展示会 (H4.10.6～8 富山大学)
 ・見学会 (3コース)

1.4 東海支部

1)運営関係

- (1)総 会 H4.3.8
 (2)評議員会 なし
 (3)理 事 会 4回開催 H4.5.7、9.7、10.24、H5.2.3

2)事業関係

(1)研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主な内容
第7回若手材料研究会		H4. 5. 28	新日本製鐵名古屋支店	蒸着技術とその応用
第8回若手材料研究会		H4. 9. 21	大同特殊鋼 健保会館	材料の表面改質・表面コーティング
第9回若手材料研究会		H4.11.26	トピー工業社員クラブ	アルミニウムの表面硬化処理
若手冶金エンジニア研究会		H4. 8. 21～22	大同特殊鋼くろがね荘	金属電気化学の基礎

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講師等	参加者数
特別講演会①		H4. 6. 11	名古屋弥生会館	藤田 英一	
特別講演会②		H4. 7. 9	名古屋大学豊田講堂	M.C.Flemings	
特別講演会③		H5. 1. 21	名古屋大学工学部	細井 祐三	
湯川記念講演会①		H4. 9. 17	名古屋大学工学部	沖 猛雄	
湯川記念講演会②		H4. 3. 11	名古屋大学シンポジオン	清藤晋一郎	
(本多光太郎記念講演会)		(H4. 7. 13)	(名古屋大学工学部)	(増本 健)	
学術討論会		H4.12.14～15	名古屋大学シンポジオン		
講習会		H4.12.21	名古屋大学シンポジオン		
金属材料 談話会①		H4. 5. 11	名古屋大学工学部	Dr.W.M.Stobbs	
” ②		H4. 9. 28	名古屋工業大学	Prof.G.Inden	
” ③		H4.11.2	名古屋工業大学	Prof.Y.I.Ustinovshikov	
” ④		H5. 1. 11	名古屋大学豊田講堂	沖 憲典	
材料プロセッシング 談話会①		H4. 5. 13	名古屋大学工学部	S.V.コマロフ博士	
” ②③		H4.12.17	名古屋大学工学部	竹田 美和 高井 治	
宿題テーマ研究会		H4. 7. 17	名古屋工業大学		
第4回東海支部・塑性加工工ウイーク クエンドセミナー	日本塑性加工学会東海支部主催	H4. 6. 12～13 H4. 6. 19～20	愛知県中小企業センター		

分析化学講習会	日本分析化学会中部支部主催	H4.10.12～13	名古屋市工業研究所
(3)見学会	H4.11.5 日本車輛製造(株)、豊川製作所、オーエスジー(株)		
(4)育成事業	H4.12.7 学生による材料フォーラム 名古屋大学シンポジオン		
(5)懇談会	H4.8.5 第17回東海支部・塑性加工懇談会 マルヤス工業(株)		

1.5 関西支部

1)運営関係

- (1)総会 H4.3.27
- (2)評議員会 2回開催。H4.3.27、H4.9.10
- (3)理事会 4回開催。H4.3.27、7.8、9.10、11.20
- (4)各種委員会
 - ①企画小委員会 3回開催。H4.6.4、9.7、H5.2.5
 - ②学術運営小委員会 2回開催。H4.6.30、H5.1.26
 - ③財務広報小委員会 H4.7.27
 - ④材料評論セミナー運営委員会 2回開催。H4.7.3、H5.1.18
 - ⑤「鉄と鋼」ISIJ情報ネットワーク編集委員会 H4.9.29
 - ⑥支部小史編集委員会 2回開催。H4.8.11、11.13

2)事業関係

(1)研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主な内容
材料物性工学談話会		4回		
鉄鋼プロセス研究会		4回		
材料開発研究会		7回		
材料化学研究会		3回		
関西分析研究会		3回		

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講師等	参加者数
湯川記念講演会	日本金属学会関西支部	H4.3.27	神戸製鋼所	森田善一郎 原 喬	140名
(本多記念講演会)	(日本金属学会関西支部主催)	(H4.7.8)	(関西大学)	(西澤泰二) 日口 章	100名
湯川記念講演会	日本金属学会関西支部	H4.9.10	川崎製鉄	田中 良平 萬谷 志郎	70名
支部講演会材料評価セミナー	〃	H4.11.20	神戸製鋼所	田中 英輔	70名
化学的評価	〃	H4.10.13	大阪府立大学		17名
〃 組織観察	〃	H4.10.30	兵庫県立工業技術 センター		34名
X線回折	〃	H4.11.13	理学電機		14名
表面分析	〃	H4.12.10	島津製作所		20名
シンポジウム	〃	H4.5.8	兵庫県立工業技術 センター	新宮 秀夫 他	60名
シンポジウム	日本金属学会関西、関東支部	H4.5.27	京都大学	岩瀬 正則 他	42名

(3)見学会 H4.11.20 神戸製鋼所鉄鋼技術研究所及び加古川製鉄所

(4)その他の事業 懇親会 H4.3.27

1.6 中国四国支部

1)運営関係

- (1)総会 H4.3.17
- (2)理事会 2回開催。H4.8.4、H5.3.3

2)事業関係

(1)研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主な内容
金属物性研究会	日本金属学会中国四国支部	H4.10.20	職会館	複合振動子法による転位のダイナミックスの研究 Cu中に析出したfcc-Feの低温構造相転移
金属物性・材質制御合同研究会	日本金属学会中国四国支部	H4.11.13	広島大学	金属中の水素の挙動とその応用(Ⅰ) 4件
金属物性・材質制御合同研究会	日本金属学会中国四国支部	H5.1.7	広島大学	金属中の水素の挙動とその応用(Ⅱ) 7件

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講師等	参加者数
春季学術講演会	日本金属学会中国四国支部	H4. 3. 17	広島弥生会館	中村 崇 天野 明弘	70名
支部講演大会	日本金属学会中国四国支部	H4. 8. 4	宇部市文化会館		130名
学術講演会	日本金属学会中国四国支部	H4. 8. 5	宇部市文化会館	坂本 昭	110名
"	"	"	"	新原 皓一	

(3)見学会 H4.8.5 超高温材料研究センター 日本金属学会中国四国支部共催 参加者90名

1.7 九州支部

1)運営関係

(1)総 会 H4.6.5

(2)評議員会 H4.6.5

(3)理 事 会 4回開催。 H4.6.5、8.28、H5.1.22、H5.2.19

2)事業関係

(1)研究会

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	主 要 内 容
98回材料科学談話会		H4. 5. 29	九州大学	破壊過程におけるクラックと結晶欠陥の相互作用
99回 "		H4. 6. 9	"	不変面変形・不変線変形とその異相界面結晶学への応用
100回 "		H4. 7. 17	"	分析電子顕微鏡によるNi-Al系の相互拡散係数測定と界面特性
101回 "		H4. 7. 29	"	半導体材料プロセスの研究に関する最近のトピックス
102回 "		H4. 9. 16	"	Irradiation effects on order-disorder reactions in metallic alloys
103回 "		H4.10.23	長崎大学	歯科用合金における時効効果と相変態
104回 "		H4.11.16	九州大学	An in-situ study of deformation mechanisms in TiAl
61回材料工学談話会		H4. 5. 20	九州大学	Aging and Stabilization of Martensite in Cu-base Shape Memory Alloys
62回 "		H4.10. 9	福岡リーセントホテル	The Development of Tool Steel Castings for Impact/Abra ion Resistance in the Mining Industry
63回 "		H4.11. 9	九州大学	Present Situation of Metal Working Industries in Indonesia
64回 "		H5. 1. 24	九州大学	先進材料の接合
77回材料プロセス談話会		H4. 5. 13	三井金属三池事務所	資源リサイクルに関する問題
78回 "		H4. 6. 2	九州大学	スラグの物性について
79回 "		H4. 9. 22	"	物性的立場からの鉄鋼製錬研究へのアプローチ
80回 "		H5.1. 29	福岡リーセント	ホテル最近の材料製造プロセスに関する研究

(2)講演会・講習会・シンポジウム

名 称	共催・後援団体	開催日	会 場	講師等	参加者
77回学術講演会	金属学会	H4. 6. 5	熊本大学		263名
78回講演討論会	"	H4. 9. 25	長崎大学	増山不二光 他	111名
79回講演討論会	"	H4.12. 4	住友金属工業小倉	馬場 義雄 他	71名
44回湯川記念講演会	"	H4. 9. 25	長崎大学	田中 良平	83名
45回湯川記念講演会	"	H4.12. 4	住友金属工業小倉	武智 弘	71名

2. 収支決算

収入の部

(単位：円)

科 目	合 計	北 海 道	東 北	北 陸	東 海	関 西	中国四国	九 州
本 部 補 助 金	6,205,000	456,000	456,000	285,000	843,000	2,054,000	1,170,000	941,000
(基 本 補 助 金)	1,780,000	200,000	200,000	200,000	240,000	400,000	300,000	240,000
(会 費 補 助 金)	3,625,000	156,000	156,000	85,000	503,000	1,404,000	870,000	451,000
(研 究 補 助 金)	800,000	100,000	100,000	0	100,000	250,000	0	250,000
湯 川 補 助 金	1,685,439	111,683	182,408	294,632	244,116	300,000	252,600	300,000
会 費	995,000	0	0	0	400,000	0	595,000	0
参 加 費	888,800	51,000	0	0	727,800	110,000	0	0
他 団 体 分 担 金	645,000	15,000	130,000	0	0	0	0	500,000
利 子 収 入	390,684	56,598	1,366	354	23,012	218,723	31,213	59,418
雑 収 入	576,425	0	58,425	0	0	0	0	518,000
当 期 収 入 合 計 (A)	11,386,348	690,281	828,199	579,986	2,237,928	2,682,723	2,048,813	2,318,418
前 期 繰 越 収 支 差 額 (B)	13,219,723	1,136,269	458,672	334,571	208,806	4,139,166	5,468,632	1,473,607
収 入 合 計 (A+B)	24,606,071	1,826,550	1,286,871	914,557	2,446,734	6,821,889	7,517,445	3,792,025
参 考								

支出の部

事 業 費								
研 究 会 費	1,504,534	307,058	90,000	20,250	108,000	630,000	109,226	240,000
講 演 会 ・ 講 習 会 費 等	3,400,947	183,370	435,795	0	1,560,690	0	345,395	875,697
見 学 会 費	270,996	0	28,180	0	146,321	0	96,495	0
湯 川 記 念 講 演 会 費	1,706,848	111,683	182,408	294,632	244,116	310,942	252,600	310,467
そ の 他 事 業 費	479,271	0	0	229,271	0	250,000	0	0
事 業 費 合 計 (C)	7,362,596	602,111	736,383	544,153	2,059,127	1,190,942	803,716	1,426,164
管 理 費								
会 議 費	1,116,706	125,505	28,062	4,500	129,633	365,195	198,941	264,870
旅 費 交 通 費	547,921	6,500	0	51,980	2,742	286,200	200,499	0
事 務 費	1,680,326	0	14,101	2,394	94,710	703,152	691,900	174,069
通 信 費	262,320	20,531	15,254	2,000	81,433	52,107	65,689	25,306
印 刷 費	209,109	19,355	0	0	24,844	93,360	71,550	0
雑 費	185,034	0	2,060	3,320	51,223	21,516	106,915	0
管 理 費 合 計 (D)	4,001,416	171,891	59,477	64,194	384,585	1,521,530	1,335,494	464,245
支 出 の 部 合 計 (C+D)	11,364,012	774,002	795,860	608,347	2,443,712	2,712,472	2,139,210	1,890,409
次 期 繰 越 収 支 差 額	13,242,059	1,052,548	491,011	306,210	3,022	4,109,417	5,378,235	1,901,616

**Ⅶ. 平成4年度(自 平成4年3月1日
至 平成5年2月28日)収支決算**

平成4年度収支計算書総括表

費 目		一般会計Ⅰ	別途資金会計Ⅱ			補助金等事業会計Ⅲ	合 計 Ⅰ+Ⅱ+Ⅲ
			特別資金(ア)	積立金等(イ)	小計(ア)+(イ)		
収入の部	会 費 収 入	647,709,869	0	0	0	0	647,709,869
	事 業 収 入	404,072,373	0	0	0	0	404,072,373
	補 助 金 ・ 受 託 金 収 入	0	0	0	0	2,398,449	2,398,449
	寄 付 金 ・ 負 担 金 ・ 分 担 金 収 入	0	0	2,252,211	2,252,211	6,861,525	9,113,736
	利 子 ・ 雑 収 入	9,845,968	66,240,295	19,944,012	86,184,307	571,962	96,602,237
	繰 入 金 収 入	10,057,197	15,174,953	25,961,735	41,136,688	1,490,618	52,684,503
	当 期 収 入 合 計 (A)	1,071,685,407	81,415,248	48,157,958	129,573,206	11,322,554	1,212,581,167
	前 期 繰 越 収 支 差 額	66,267,610	1,053,222,982	342,303,476	1,395,526,458	16,900,150	1,478,694,218
	収 入 合 計 (B)	1,137,953,017	1,134,638,230	390,461,434	1,525,099,664	28,222,704	2,691,275,385
支出の部	事 業 費	893,661,352	65,089,790	0	65,089,790	8,383,517	967,134,659
	管 理 費	166,843,829	0	22,266,700	22,266,700	0	189,110,529
	繰 出 金 支 出	27,452,353	15,174,953	10,000,000	25,174,953	57,197	52,684,503
	当 期 支 出 合 計 (C)	1,087,957,534	80,264,743	32,266,700	112,531,443	8,440,714	1,208,929,691
	当 期 収 支 差 額 (A-C)	-16,272,127	1,150,505	15,891,258	17,041,763	2,881,840	3,651,476
	次 期 繰 越 収 支 差 額 (B-C)	49,995,483	1,054,373,487	358,194,734	1,412,568,221	19,781,990	1,482,345,694

平成4年度貸借対照表総括表

科 目	一般会計Ⅰ	別途資金会計Ⅱ			補助金等事業会計Ⅲ	合 計 Ⅰ+Ⅱ+Ⅲ
		特別資金(ア)	積立金等(イ)	小計(ア)+(イ)		
資 産 の 部						
流 動 資 産	408,811,267	1,054,837,145	368,194,734	1,423,031,879	19,781,990	1,851,625,136
固 定 資 産	169,908,405	0	0	0	0	169,908,405
資 産 合 計	578,719,672	1,054,837,145	368,194,734	1,423,031,879	19,781,990	2,021,533,541
負 債 の 部						
流 動 負 債 合 計	168,097,150	463,658	10,000,000	10,463,658	0	178,560,808
正 味 財 産 の 部	410,622,522	1,054,373,487	358,194,734	1,412,568,221	19,781,990	1,842,972,733
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	578,719,672	1,054,837,145	368,194,734	1,423,031,879	19,781,990	2,021,533,541

平成4年度一般会計貸借対照表内訳表

科 目		金 額
資 産 の 部	現 金 預 金	171,504,930
	未 収 入 金	14,510,517
	仮 払 金	7,672,085
	仮 払 消 費 税	21,544,843
	貸 付 金	0
	棚 卸 資 産	190,718,634
	立 替 金	2,775,738
	委 託 未 収 金	84,520
	流 動 資 産 合 計	408,811,267
	固 定 資 産	
固 定 資 産	車 両	362,000
	什 器 備 品	31,326,957
	図 書 資 料	946,548
	敷 地	66,622,900
	電 信 電 話 債 券	150,000
	用 紙 等 積 立 金	40,500,000
	修 繕 積 立 金	30,000,000
	固 定 資 産 合 計	169,908,405
資 産 合 計		578,719,672
負 債 の 部	未 払 金	4,843,133
	仮 受 金	3,615,423
	仮 受 消 費 税	21,789,064
	前 受 り 金	122,927,297
	預 り 金	3,047,733
	未 払 費 用 引 当 金	11,874,500
負 債 合 計		168,097,150
正 財 産 の 部	正 味 財 産	424,301,434
	当 期 正 味 財 産 増 加 額	- 13,678,912
	期 末 正 味 財 産	410,622,522
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計		578,719,672

平成4年度一般会計収支計算書内訳表

支出の部			収入の部		
事業別	費目	金額	事業別	費目	金額
編集・業務事業費	境界領域委員会費	1,722,470	編集・業務事業収入	和文誌分譲収入	24,033,033
	編集委員会費	3,835,092		広告収入	19,437,311
	和文会誌費	107,916,266		その他事業収入	932,623
	欧文会誌費	46,269,538		小計	44,402,967
	材料とプロセス費	19,812,669		欧文誌分譲収入	14,779,989
	その他刊行費	2,536,797		広告収入	577,340
	講演大会費	21,667,326		補助金収入	9,100,000
	小計	202,037,688		その他事業収入	166,506
	育成委員会費	649,013		小計	24,623,835
	西山技術講座費	13,050,339		材料とプロセス分譲収入	33,455,971
	白石記念講座費	3,640,101		広告収入	3,184,500
	鉄鋼工学セミナー費	21,741,033		小計	36,640,471
	学生見学会費	15,904,865		その他刊行物分譲収入	3,711,432
	高校技術教育協議会費	1,033,189		小計	3,711,432
	知的財活用費	28,448		講演大会参加費収入	4,530,928
	小計	56,046,988		広告収入	260,000
	会員管理費	11,332,219		小計	4,790,928
	支部関係費	6,205,000		西山テキスト分譲収入	8,699,735
	人件費	64,539,085		広告収入	447,000
	管理費	14,425,651		西山記念資金繰入	3,903,604
				小計	13,050,339
	計	356,309,101		白石テキスト分譲収入	1,388,629
				広告収入	0
				白石記念資金繰入	2,251,472
				小計	3,640,101
				鉄鋼工学セミナー参加費	22,755,087
				小計	22,755,087
				学生見学会分損金	15,975,000
				計	169,590,160
国際事業費	国際交流委員会費	126,410	国際事業収入	スラグTCテキスト分譲収入	2,295,692
	スラグ国際会議費(92)	12,457,436		スラグ国際会議参加費収入	13,435,568
	コンピューター国際会議費(93)	808,516		その他事業収入	1,421,632
	日ノルディックシンポジウム費(92)	4,607,987		補助金収入	500,000
	日中シンポジウム費(92)	8,529,634		小計	17,652,892
	日独シンポジウム費(93)	204,846		日中シンポジウム参加費収入	1,240,779
	集会事業準備費	4,879,442			
	人件費	46,802,704			
	管理費	5,570,825			
	計	83,987,800		計	18,893,671
技術調査研究事業費	研究委員会費	2,941,274	技術調査研究事業収入	鉄鋼基礎共同研究会分損金	950,000
	共同研究会費	49,973,116		鋼管部会HLP分損金	14,805,830
	特定基礎研究会費	52,935,971			
	基礎研究会費	6,851,304			
	鉄鋼基礎共同研究会費	12,954,975			
	国際鉄鋼技術委員会費	730,781			
	人件費	39,349,457			
	管理費	13,643,307			
	計	179,380,185		計	15,755,830
鉄鋼技術情報事業費	鉄鋼技術情報センター運営委員会費	812,648	鉄鋼技術情報事業収入	図書館サービス収入	4,668,865
	図書・資料業務費	21,257,613		頒布収入	9,808,665
	情報業務費	4,142,691		情報業務収入	13,778,068
	人件費	41,042,750			
	管理費	39,413,189		計	28,255,598
	計	106,668,891			
鉄鋼標準化センター事業費	鉄鋼標準化センター運営委員会費	1,779,389	鉄鋼標準化センター 事業収入及び分損金	鉄鋼標準試料収入	50,427,203
	標準化委員会費	6,256,694		補助金収入	4,810,687
	鉄鋼標準試料費	44,495,019		標準化センター分損金	116,339,224
	TC17業務費	8,241,939			
	TC17/SC1業務費	10,320,137			
	TC67/SC5業務費	2,222,857			
	TC67/SC5国際会議費	2,250,406			
	JIS見直し事業費	3,714,948			
	人件費	52,707,722			
	管理費	35,326,264			
	計	167,315,375		計	171,577,114
	事業費合計	893,661,352		事業収入合計	404,072,373
管理費	人件費	101,376,705	会費収入	正・学生会員会費	88,779,762
	一般管理費	37,410,824		外国会員会費	6,960,582
	名簿構築費	9,750,000		維持会員会費	551,969,525
	別館レイアウト変更費	18,306,300		会費収入合計	647,709,869
	管理費合計	166,843,829		利子・雑収入	9,845,968
繰出金支出	繰出金支出	27,432,353	繰入金収入	会館資金積立金等繰入	10,057,197
	当期支出合計	1,087,957,534		当期収入合計	1,071,685,407
	次期繰越収支差額	49,995,483		前期繰越収支差額	66,267,610
	総計	1,137,953,017		総計	1,137,953,017

平成4年度 別途資金会計収支計算書内訳表・補助金等事業会計収支計算書内訳表

科 目		特 別 資 金											計
		表彰並びに 事業資金 (5,802万円)	渡辺義介 記念資金 (1,000万円)	西山弥太郎 記念資金 (5,000万円)	湯川正夫 記念資金 (3,000万円)	浅田長平 記念資金 (5,000万円)	三島徳七 記念資金 (613万円)	林達夫 記念資金 (500万円)	白石元治郎 記念資金 (5,000万円)	日向方斉 振興資金 (6,000万円)	研究振興資金 (292万円)	外島健吉 記念資金 (10,000万円)	
収入の部	補助金・受託金収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	寄付金・負担金・分担金収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利子・雑収入	4,100,773	819,261	2,948,519	2,976,964	3,628,023	436,982	367,213	4,296,961	3,077,807	234,143	5,898,675	3
	繰入金収入	15,174,953	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	当期収入合計	19,275,726	819,261	2,948,519	2,976,964	3,628,023	436,982	367,213	4,296,961	3,077,807	234,143	5,898,675	3
支出の部	前期繰越収支差額	71,140,741	15,257,869	50,850,527	52,251,723	50,150,793	8,567,765	6,615,693	57,393,628	57,023,491	4,234,031	107,725,846	57
	収入合計	90,416,467	16,077,130	53,799,046	55,228,687	53,778,816	9,004,747	6,982,906	61,690,589	60,101,298	4,468,174	113,624,521	60
	表彰費、調査・研究費	1,890,182	275,700	275,700	0	424,700	501,000	311,700	0	0	0	0	0
	記念講座費、講演会費	0	0	3,903,604	4,516,987	0	0	0	2,251,472	0	0	0	0
	浅田記念文庫費、出版費	0	0	0	0	939,568	0	0	0	0	0	9,252,320	0
	研究助成金、学術振興費	0	0	0	0	0	0	0	0	3,456,242	0	0	3
	小計	1,890,182	275,700	4,179,304	4,516,987	1,364,268	501,000	311,700	2,251,472	3,456,242	0	9,252,320	3
	退職金、退職一時金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退職年金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	繰出金支出	0	0	0	0	0	8,503,747	6,671,206	0	0	0	0	0
当 期	当期支出合計	1,890,182	275,700	4,179,304	4,516,987	1,364,268	9,004,747	6,982,906	2,251,472	3,456,242	0	9,252,320	3
	当期収支差額	17,385,544	543,561	-1,230,785	-1,540,023	2,263,755	-8,567,765	-6,615,693	2,045,489	-378,435	234,143	-3,353,645	57
	次期繰越収支差額	88,526,285	15,801,430	49,619,742	50,711,700	52,414,548	0	0	59,439,117	56,645,056	4,468,174	104,372,201	57

平成4年度 別途資金会計貸借対照表内訳表・補助金等事業会計貸借対照表内訳表

科 目		特 別 資 金											計
		表彰並びに 事業資金 (5,802万円)	渡辺義介 記念資金 (1,000万円)	西山弥太郎 記念資金 (5,000万円)	湯川正夫 記念資金 (3,000万円)	浅田長平 記念資金 (5,000万円)	三島徳七 記念資金 (613万円)	林達夫 記念資金 (500万円)	白石元治郎 記念資金 (5,000万円)	日向方斉 振興資金 (6,000万円)	研究振興資金 (292万円)	外島健吉 記念資金 (10,000万円)	
流動資産	現金預金	88,309,837	15,801,430	49,944,688	50,711,700	52,414,548	0	0	59,577,829	56,645,056	4,468,174	104,372,201	572
	未収入金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	仮払金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	仮払消費税	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	貸付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流動負債	棚卸資産	216,448	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	88,526,285	15,801,430	49,944,688	50,711,700	52,414,548	0	0	59,577,829	56,645,056	4,468,174	104,372,201	572
	未払金	0	0	324,946	0	0	0	0	138,712	0	0	0	0
	仮受金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	仮受消費税	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
正味財産	合 計	0	0	324,946	0	0	0	0	138,712	0	0	0	0
	前期繰越正味財産額	71,140,741	15,257,869	50,850,527	52,251,723	50,150,793	8,567,765	6,615,693	57,393,628	57,023,491	4,234,031	107,725,846	572
	当期正味財産増加額	17,385,544	543,561	-1,230,785	-1,540,023	2,263,755	-8,567,765	-6,615,693	2,045,489	-378,435	234,143	-3,353,645	57
	合 計	88,526,285	15,801,430	49,619,742	50,711,700	52,414,548	0	0	59,439,117	56,645,056	4,468,174	104,372,201	572
	負債及び正味財産合計	88,526,285	15,801,430	49,944,688	50,711,700	52,414,548	0	0	59,577,829	56,645,056	4,468,174	104,372,201	572

一般会計正味財産増減計算書

1 増加の部	
1. 資産増加額	
什器備品購入額	10,832,300
棚卸資産増加額	1,278,141
小 計	12,110,441
2 減少の部	
1. 資産減少額	
当期収支差額	16,272,127
什器備品減価償却額	8,119,586
什器備品除却額	854,640
車両減価償却額	543,000
小 計	25,789,353
当期正味財産増加額	-13,678,912
前期繰越正味財産額	424,301,434
期末正味財産合計額	410,622,522

今計 (円)	積立金等							別途資金 合 計	補助金等事業				
	基本金	退職金 積立金	退職年金 積立金	厚生資金 積立金	会館資金 積立金	国際会議 積立金	積立金等 合 計		日本圧力 容器研究 会 議	ISO鉄鋼部会	新環境統 合都市研 究事業	鉄鋼二次 製品生産 設備調査	補助金等 事業合計
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,398,449	0	2,398,449
0	0	0	2,252,211	0	0	0	2,252,211	2,252,211	4,919,777	0	0	1,941,748	6,861,525
295	623,771	5,427,339	7,989,457	1,925,640	1,210,386	2,767,419	19,944,012	86,184,307	566,780	0	3,580	1,602	571,962
953	0	20,000,000	5,961,735	0	0	0	25,961,735	41,136,688	0	0	690,618	800,000	1,490,618
248	623,771	25,427,339	16,203,403	1,925,640	1,210,386	2,767,419	48,157,958	129,573,206	5,486,557	0	3,092,647	2,743,350	11,322,554
982	10,477,556	91,968,136	135,067,679	33,947,857	20,448,867	50,393,381	342,303,476	1,395,526,458	16,842,953	57,197	0	0	16,900,150
230	11,101,327	117,395,475	151,271,082	35,873,497	21,659,253	53,160,800	390,461,434	1,525,099,664	22,329,510	57,197	3,092,647	2,743,350	28,222,704
982	0	0	0	0	0	0	0	3,678,982	3,752,847	0	3,092,647	1,538,023	8,383,517
063	0	0	0	0	0	0	0	10,672,063	0	0	0	0	0
888	0	0	0	0	0	0	0	10,191,888	0	0	0	0	0
857	0	0	0	0	0	0	0	40,546,857	0	0	0	0	0
790	0	0	0	0	0	0	0	65,089,790	3,752,847	0	3,092,647	1,538,023	8,383,517
0	0	20,710,000	399,700	0	0	0	21,109,700	21,109,700					
0	0	0	1,157,000	0	0	0	1,157,000	1,157,000					
0	0	20,710,000	1,556,700	0	0	0	22,266,700	22,266,700	0	0	0	0	0
953	0	0	0	0	10,000,000	0	10,000,000	25,174,953	0	57,197	0	0	57,197
743	0	20,710,000	1,556,700	0	10,000,000	0	32,266,700	112,531,443	3,752,847	57,197	3,092,647	1,538,023	8,440,714
505	623,771	4,717,339	14,646,703	1,925,640	-8,789,614	2,767,419	15,891,258	17,041,763	1,733,710	-57,197	0	1,205,327	2,881,840
487	11,101,327	96,685,475	149,714,382	35,873,497	11,659,253	53,160,800	358,194,734	1,412,568,221	18,576,663	0	0	1,205,327	19,781,990

金 計 (円)	積立金等							別途資金 合 計	補助金等事業				
	基本金	退職金 積立金	退職年金 積立金	厚生資金 積立金	会館資金 積立金	国際会議 積立金	積立金等 合 計		日本圧力 容器研究 会 議	ISO鉄鋼部会	新環境 統合都市 研究事業	鉄鋼二次 製品生産 設備調査	補助金等 事業合計
697	11,101,327	96,685,475	149,714,382	26,449,802	21,659,253	53,160,800	358,771,039	1,413,391,736	17,937,856	0	0	1,205,327	19,143,183
0	0	0	0	0	0	0	0	0	259,562	0	0	0	259,562
0	0	0	0	0	0	0	0	0	379,245	0	0	0	379,245
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	9,423,695	0	0	9,423,695	9,423,695	0	0	0	0	0
448	0	0	0	0	0	0	0	216,448	0	0	0	0	0
145	11,101,327	96,685,475	149,714,382	35,873,497	21,659,253	53,160,800	368,194,734	1,423,031,879	18,576,663	0	0	1,205,327	19,781,990
658	0	0	0	0	10,000,000	0	10,000,000	10,463,658	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
658	0	0	0	0	10,000,000	0	10,000,000	10,463,658	0	0	0	0	0
982	10,477,556	91,968,136	135,067,679	33,947,857	20,448,867	50,393,381	342,303,476	1,395,526,458	16,842,953	57,197	0	0	16,900,150
505	623,771	4,717,339	14,646,703	1,925,640	-8,789,614	2,767,419	15,891,258	17,041,763	1,733,710	-57,197	0	1,205,327	2,881,840
487	11,101,327	96,685,475	149,714,382	35,873,497	11,659,253	53,160,800	358,194,734	1,412,568,221	18,576,663	0	0	1,205,327	19,781,990
145	11,101,327	96,685,475	149,714,382	35,873,497	21,659,253	53,160,800	368,194,734	1,423,031,879	18,576,663	0	0	1,205,327	19,781,990

VIII 総務事項

- 1) H4.5.21、平成3年度事業報告、収支決算報告、財産目録、平成4年度事業計画、収支予算書及び通常総会決議録を文部大臣に提出。
 - 2) 理事の変更登記を東京法務局へ提出、5月14日登記完了。
 - 3) 理事の変更登記を東京法務局へ提出、8月7日登記完了。
 - 4) 賛助会員制度の変更、新入会員の会費納入制度の変更、支部の会費補助率変更のため「定款施行細則」を一部改訂。
 - 5) 「就業規則」「給与規程」を一部改訂。
 - 6) 東北支部、東海支部の支部規則を一部改訂。東北支部の理事と東海支部の評議員の数を増加。
 - 7) 平成4年度鉄鋼二次製品生産設備の実態調査について日本小型自動車振興会より300万円の補助金交付が決定した。事業総額は600万円。経理については補助金会計を設置。
 - 8) 本会80周年記念行事について検討を開始。
-

IX 寄付金の受入れ

本年度はなし。